



⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	授業に含まれているスキルセットのキーワード
<p>(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄り添っているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている</p>	<p>1-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI「データサイエンスの世界」(1回目、7回目、13回目、14回目)</li> <li>・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化「データサイエンスの世界」(1回目、2回目、7回目、13回目、14回目)</li> <li>・Society 5.0、データ駆動型社会「データサイエンスの世界」(1回目、7回目、13回目、14回目)</li> <li>・複数技術を組み合わせたAIサービス「データサイエンスの世界」(1回目、7回目、13回目、14回目)</li> <li>・人間の知的活動とAIの関係性「データサイエンスの世界」(1回目、7回目、13回目、14回目)</li> <li>・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方「データサイエンスの世界」(1回目、7回目、13回目、14回目)</li> </ul> <p>1-6</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、強化学習、転移学習、生成AIなど)「データサイエンスの世界」(2回目、7回目、13回目、14回目)</li> <li>・基盤モデル、大規模言語モデル、拡散モデル「データサイエンスの世界」(2回目、7回目、13回目、14回目)</li> </ul>
<p>(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの</p>	<p>1-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査データ、実験データ、人の行動ログデータなど「データサイエンスの世界」(1回目、4回目、5回目、6回目、7回目、13回目、14回目)</li> <li>・データ作成(ビッグデータとアノテーション)「データサイエンスの世界」(1回目、7回目、13回目、14回目)</li> <li>・データのオープン化(オープンデータ)「データサイエンスの世界」(1回目、7回目、10回目、13回目、14回目)</li> </ul> <p>1-3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費など)「データサイエンスの世界」(1回目、2回目、7回目、13回目、14回目)</li> <li>・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティングなど「データサイエンスの世界」(1回目、2回目、7回目、13回目、14回目)</li> <li>・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など「データサイエンスの世界」(2回目、7回目、13回目、14回目)</li> <li>・対話、コンテンツ生成、翻訳・要約・執筆支援、コーディング支援など生成AIの応用「データサイエンスの世界」(1回目、2回目、7回目、13回目、14回目)</li> </ul>
<p>(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの</p>	<p>1-4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、モデル化とシミュレーション・データ同化など「データサイエンスの世界」(2回目、4回目、7回目、13回目、14回目)</li> <li>・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化など「データサイエンスの世界」(4回目、7回目、第10回、13回目、14回目)</li> <li>・非構造化データ処理: 言語処理、画像処理など「データサイエンスの世界」(2回目、7回目、13回目、14回目)</li> <li>・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「データサイエンスの世界」(2回目、7回目、13回目、14回目)</li> <li>・認識技術、ルールベース、自動化技術「データサイエンスの世界」(2回目、7回目、13回目、14回目)</li> <li>・マルチモーダル(言語、画像、音声など)、生成AIの活用(プロンプトエンジニアリング)「データサイエンスの世界」(2回目、7回目、13回目、14回目)</li> </ul> <p>1-5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)「データサイエンスの世界」(1回目、2回目、5回目、6回目、7回目、13回目、14回目)</li> <li>・教育、サービス、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「データサイエンスの世界」(1回目、2回目、5回目、6回目、7回目、第10回、13回目、14回目)</li> </ul>
<p>(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする</p>	<p>3-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical/Legal and Social Issues)「データサイエンスの世界」(8回目、13回目、14回目)</li> <li>・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、オプトアウト「データサイエンスの世界」(8回目、13回目、14回目)</li> <li>・データ倫理、データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「データサイエンスの世界」(8回目、13回目、14回目)</li> <li>・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)「データサイエンスの世界」(8回目、13回目、14回目)</li> <li>・データバイアス「データサイエンスの世界」(9回目、7回目、13回目、14回目)</li> <li>・AIサービスの責任論「データサイエンスの世界」(8回目、13回目、14回目)</li> <li>・データガバナンス「データサイエンスの世界」(8回目、9回目、13回目、14回目)</li> <li>・データ・AI活用における負の事例紹介「データサイエンスの世界」(8回目、9回目、13回目、14回目)</li> <li>・生成AIの留意事項(ハルシネーションによる誤情報の生成、偽情報や有害コンテンツの生成・氾濫など)「データサイエンスの世界」(8回目、13回目、14回目)</li> </ul> <p>3-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性)「データサイエンスの世界」(8回目、9回目、13回目、14回目)</li> <li>・匿名加工情報、暗号化と復号、ユーザ認証と、パスワード、アクセス制御、悪意ある情報搾取「データサイエンスの世界」(8回目、9回目、13回目、14回目)</li> <li>・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「データサイエンスの世界」(8回目、9回目、13回目、14回目)</li> <li>・サイバーセキュリティ「データサイエンスの世界」(8回目、9回目、13回目、14回目)</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データの種類(量的変数、質的変数)「データサイエンスの世界」(3回目、4回目、6回目、7回目、13回目、14回目)</li> <li>・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「データサイエンスの世界」(3回目、4回目、7回目、13回目、14回目)</li> <li>・代表値の性質の違い(実社会では平均値=最頻値でないことが多い)「データサイエンスの世界」(3回目、4回目、5回目、6回目、7回目、13回目、14回目)</li> <li>・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値「データサイエンスの世界」(3回目、4回目、5回目、6回目、7回目、13回目、14回目)</li> <li>・相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡)「データサイエンスの世界」(4回目、6回目、7回目、13回目、14回目)</li> <li>・観測データに含まれる誤差の扱い「データサイエンスの世界」(3回目、4回目、5回目、6回目、7回目、13回目、14回目)</li> <li>・層別の必要なデータ「データサイエンスの世界」(4回目、5回目、6回目、7回目、13回目、14回目)</li> <li>・母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出)「データサイエンスの世界」(3回目、7回目、13回目、14回目)</li> <li>・クロス集計表、分割表「データサイエンスの世界」(3回目、4回目、5回目、6回目、7回目、13回目、14回目)</li> <li>・統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)「データサイエンスの世界」(3回目、4回目、5回目、6回目、7回目、13回目、14回目)</li> </ul>
(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、箱ひげ図)「データサイエンスの世界」(4回目、5回目、6回目、7回目、10回目、11回目、13回目、14回目)</li> <li>・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較)「データサイエンスの世界」(4回目、7回目、10回目、11回目、13回目、14回目)</li> <li>・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)「データサイエンスの世界」(4回目、6回目、7回目、13回目、14回目)</li> <li>・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)「データサイエンスの世界」(10回目、11回目、13回目、14回目)</li> <li>・相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方(スライド作成、プレゼンテーションなど)「データサイエンスの世界」(4回目、5回目、6回目、7回目、10回目、11回目、12回目、13回目、14回目)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法)「データサイエンスの世界」(5回目、6回目、7回目、10回目、11回目、12回目、13回目、14回目)</li> <li>・データの集計(和、平均)「データサイエンスの世界」(5回目、6回目、7回目、10回目、11回目、12回目、13回目、14回目)</li> <li>・データの並び替え、ランキング「データサイエンスの世界」(3回目、5回目、6回目、7回目、10回目、11回目、12回目、13回目、14回目)</li> <li>・データ解析ツール(スプレッドシート、BIツール)「データサイエンスの世界」(3回目、4回目、5回目、6回目、10回目、11回目、12回目、13回目、14回目)</li> <li>・表形式のデータ(csv)「データサイエンスの世界」(6回目、13回目、14回目)</li> </ul>

⑦プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

<p>&lt;一般目標(GIO)&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. データやAIが現代社会でどのように活用されているかを理解する【MC-1】</li> <li>2. データを適切に読み解く力を身に付ける【MC-2】</li> <li>3. データやAIの運用スキルを身に付ける【MC-2】</li> <li>4. 情報保護やセキュリティをはじめとするデータやAIの運用に係る留意点を理解する【MC-3】</li> </ol> <p>&lt;到達目標(SBOs)&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. データやAIの現代社会における利活用の現況について説明することができる【DP-2】</li> <li>2. さまざまなデータを読み、データの内容について説明することができる【DP-3, 4】</li> <li>3. 提示されたデータに基づいて、自身の考えを客観的に振り返ることができる【DP-3, 4, 8】</li> <li>4. 自身の考えに関するエビデンスを、データを用いて表現することができる【DP-3, 4, 6】</li> <li>5. AIの利点やリスクを踏まえて、AIを活用することができる【DP-3, 4】</li> <li>6. 情報保護やセキュリティをはじめとするデータを守る上で必要な事項について説明することができる【DP-1】</li> </ol>
---

## リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和7年度(和暦)

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

学部・学科名称	学生数		入学定員	収容定員	令和7年度		令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		履修者数合計	履修率
	うち女性				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
短期大学部(三島校舎)・ビジネス教養学科	103	50	60	160	1	1											1	0.6%
短期大学部(船橋校舎)・建築・生活デザイン学科	157	62	102	204	1	1											1	0.5%
短期大学部(船橋校舎)・ものづくり・サイエンス総合学科	98	21	78	156	2	2											2	1.3%
合 計	358	133	240	520	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0.8%

## 教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

## ① 全学の教員数

(常勤)	2,522	人
(非常勤)	3,332	人

## ② プログラムの授業を教えている教員数(令和7年度)

9	人
---	---

## ③ プログラムの運営責任者

(責任者名)	大熊 康典
(役職名)	生産工学部教授

## ④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(名称)	学務委員会数理・データサイエンス・AI教育プログラム検討ワーキンググループ
------	---------------------------------------

## ⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

(名称)	学務委員会数理・データサイエンス・AI教育プログラム検討ワーキンググループ設置要項
------	---

## ⑥ 体制の目的

Society5.0で活躍するH型人才(専門分野を持ちつつ他分野の専門家と交流できる人材)を育成するために、その根幹となる情報リテラシー及びデータサイエンスに係る知識・技能、態度、習慣を涵養することを目的とし、学則変更を行って「データサイエンスの世界」を令和7年度に全学共通科目として設置した。この科目の設置に伴い、学務委員会に数理・データサイエンス・AI教育プログラム検討ワーキンググループ(WG)を新設した。本WGでは、授業の具体的な設計、円滑な運営(授業担当を含む)、成績評価の確立及び継続的なプログラムの改善・進化に関する事項を一元的に担当し、全学的な数理・データサイエンス・AI教育の普及と質向上に取り組む。

## ⑦ 具体的な構成員

〈リーダー〉  
大熊 康典(生産工学部教授)  
〈サブリーダー〉  
中村 文紀(理工学部准教授)  
〈メンバー〉  
坂本 力也(法学部教授)  
大澤 正彦(文理学部准教授)  
佐藤 佑介(商学部教授)  
遠山 岳史(理工学部教授)  
JEGO Eric Hajime(医学部准教授)  
篠田 雅路(歯学部教授)  
古賀 徹(通信教育部教授)

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和7年度履修率	0.6%
令和8年度予定	5.0%
令和9年度予定	30.0%
令和10年度予定	70.0%
令和11年度予定	100.0%

具体的な計画

令和7年度から開始した「数理・データサイエンス・AI教育リテラシープログラム」は、学部、短期大学部、通信教育部の全1年次学生の履修を可能としている。現在は、履修を促進するため、以下の取り組みを実施している。

- ・受講環境の整備と柔軟性: 授業はオンライン(オンデマンド方式)の集中講義形式で、夏期(8月)と春期(2月)の年2回提供している。これにより、場所や時間に制約されない柔軟な履修機会を提供できるため、学生の負担が軽減し、参加への障壁が除去される。
- ・情報管理の一元化: 全学共通科目の学生周知サイトを設置し、実施方法やスケジュールに関する情報を一元化することで、学生が迷わず受講できる環境を整備している。
- ・学部連携による促進: 全学部がガイダンス等を通じて学生に周知するとともに、各学部の学事日程に合わせた履修登録を行うなど、学部レベルで履修登録の促進を図っている。

今後は、本教育プログラムの実績に基づき、学生への更なる周知と履修の強い推奨を実施するとともに、学生のさまざまな履修実態を踏まえた追加履修登録の再検討等を行い、これらの施策を通じて、早期に履修率向上への対応を行うとともに、全学の収容定員に合わせた本プログラムへの受入学生数の増加を目指す。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

「数理・データサイエンス・AI教育リテラシープログラム」の授業は、全学共通科目として開講され、文系、理系及び医療系といった全ての学部・学科を問わず、全ての1年次学生が履修可能となっている。授業はオンライン(オンデマンド方式)の夏期・春期年2回の集中講義形式で実施され、時間的・地理的な制約を緩和し、幅広い学生に受講機会を提供している。授業コンテンツは共通学修プラットフォームである全学LMSを介して提供される。

履修希望者は学生周知サイトのエントリーフォームから個別に手続きすることが可能で、受講定員(夏期・春期各800名)超過時は抽選で履修者を決定し、公平性を担保している。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

各学部は、入学後のガイダンスで「数理・データサイエンス・AI教育リテラシープログラム」の授業科目「データサイエンスの世界」に関する資料を配布すると共に、学務委員会数理・データサイエンス・AI教育プログラム検討ワーキンググループが作成したシラバスを基に学部の書式に合わせたシラバスを作成して履修システムに組み込み、学生への周知を図っている。その上で、学部開講科目と履修方法が異なることを説明し、専用の学生周知サイトからの履修登録を促す指導を行っている。

履修希望者は、この学生周知サイトで、申し込み方法やスケジュール等を記載したガイダンス資料を確認し、サイト内の「エントリーフォーム」から、所属学部の学事日程に合わせて設定されている申し込み締切日までに、個々にエントリーの手続きが行えるような環境を整えている。

なお、夏期集中及び春期集中の当初募集後、春期集中の履修登録者数が定員に達していない場合は、後学期開始前に追加募集を実施して、一度履修できなかった学生にも再度の履修機会が得られるようにしている。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

「数理・データサイエンス・AI教育リテラシープログラム」の授業は、オンライン（オンデマンド方式）の集中講義形式（夏期・春期）で実施されており、学生は時間や場所に縛られることなく、自宅等から自由に受講できる体制となっている。一方、集中講義形式で起こりがちな学修の遅れや中断を防ぐため、無理なく計画的に進められるようモデルスケジュールに沿った受講を推奨し、学修をサポートしている。さらに、学修効果を高めるため、モデルスケジュールに合わせて授業コンテンツを用いたメタバースによるオンライン授業も設定し、教員や他の学生とのリアルタイムな交流の機会を提供している。

学修内容を確実に定着させるために、すべての授業コンテンツは全学LMSで提供され、回次のスキップを不可としている。また、全ての授業コンテンツが全学LMSにアーカイブとして蓄積されているため、学生はいつでも授業を繰り返し視聴し、復習することが可能となっている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

「数理・データサイエンス・AI教育リテラシープログラム」においては、学生の学修促進のため、学務委員会数理・データサイエンス・AI教育プログラム検討ワーキンググループが主体となり、学生へのサポートを実施している。本プログラムの履修管理及び学修サポートの基盤は、全学LMSの活用にある。学生は授業時間外に生じた不明点や質問を全学LMS経由で問い合わせることが可能で、寄せられた質問に対しては、数理・データサイエンス・AI教育プログラム検討ワーキンググループの教員が迅速に対応し、全学LMSを通じて返答する体制を整備している。これにより、自宅等で各自受講するオンデマンド授業形式であっても、全学LMSをハブとして、継続的かつ体系的な学修指導・質問対応を実現し、学生の円滑な学修を支援している。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制 学務委員会数理・データサイエンス・AI教育プログラム検証ワーキンググループ

(責任者名) 辻 泰弘  
 (役職名) 薬学部教授

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学内からの視点</p>	
<p>プログラムの履修・修得状況</p>	<p>自己評価(A:優、B:良、C:可、D:不可)                      本学では、全学共通科目「データサイエンスの世界」(2単位)とする数理・データサイエンス・AI教育プログラムを令和7年度より実施している。本科目は、夏期及び春期に各14回(講義・演習を含む)の集中開講で行っている。本科目は文部科学省モデルカリキュラム(MC)に準拠し、導入・基礎・心得・選択の4区分で構成している【「データサイエンスの世界」(2025年度前期)授業構成】。                      全14回の授業に占める導入・基礎・心得・選択の4区分は以下の通りであった。</p> <p>導入 28%                      基礎 31%                      心得 19%                      選択 22%                      ---                      合計 100%</p> <p>本プログラムでは基礎領域が全体の約3割を占め、データサイエンスの考え方・統計的思考の基盤を重視した構成となっている。また、導入・心得領域を通して「データを社会でどう扱うか」を学び、選択領域で応用的テーマ(AI、情報活用、データ可視化など)に発展する段階的設計が特徴である。令和7年度の履修者数は282名(内、夏期履修者数222名)であった。対象は16学部、短期大学部、通信教育部の全学に及ぶ。ただし、履修者の所属には明確な傾向がみられ、生産工学部(157名)と生物資源科学部(52名)の学生が全体の8割を占めている。                      これは、プログラムが工学系・理系学生に比較的関心を持たれやすかったことを示す一方で、本来の趣旨である「専門外の学生にも広く数理・データサイエンスの基礎を身につけてもらう」という目的の観点からは、今後の課題でもある。特に、文系学部の学生は内容や操作に苦手意識を持つ傾向があり、学修支援体制や教材設計を工夫することで、より幅広い層に学びの機会を届ける必要がある。授業はオンデマンド型集中講義形式で、地域や時間の制約を受けずに履修できる仕組みを整備している。履修者数は初年度としては一定の水準にあり、全学的な導入体制が確立されたことが確認された。</p>
<p>学修成果</p>	<p>自己評価B                      アンケート(回答102名/履修222名)では、学生の多くが授業に満足していると回答し、授業の構成や教材のわかりやすさに関して高い評価が得られた【「データサイエンスの世界」2025前期アンケート結果(概要)】。特に高評価であった項目は以下の通りである。</p> <p>---                      この授業の総合的な満足度を教えてください。(Q12)                      複数教員によるオムニバス形式でしたが、授業の内容は一貫性がありましたか。(Q13)                      説明は的確でしたか。(Q14)                      説明は聞き取りやすかったですか。(Q15)                      スライド・動画はわかりやすかったですか。(Q16)                      提示された資料(図・表・グラフなどのデータを含む)は内容を理解する上で役に立ちましたか。(Q17)</p> <p>---                      これらの設問では、「強くそう思う」、「そう思う」の回答がいずれも全体の約9割以上を占めており、学生が授業内容を十分に理解できたことが示唆された【「データサイエンスの世界」2025前期アンケート結果(概要)】。また、自由記述では「MATLABやプレゼンテーションなどの実践課題が印象的だった」、「AIに関する内容が興味深かった」など、実践的な課題設定への肯定的意見が多く確認された【「データサイエンスの世界」2025前期アンケート結果(概要)】。一方で、アンケート回収率が約46%(回答102名/履修者222名)にとどまっているため、結果が履修者全体の意見を完全に代表しているとは言い切れない。特にオンデマンド型授業形式のため、回答機会を逸した学生が一定数存在した可能性がある。今後は、回答率向上のためのリマインド通知や回答期間の延長など、実施方法の改善を検討する必要がある。それでも、本結果は授業設計や教材の有効性を評価する上で十分な傾向を示しており、初年度として学修効果が確認された。</p>

	<p>学生アンケート等を通じた学生の理解度</p>	<p>自己評価B 授業内容の理解度を直接問う設問は設定されていないが、関連する設問(Q12からQ17)においては肯定的な回答が非常に多かった。</p> <p>-----</p> <p>この授業の総合的な満足度を教えてください。(Q12) 複数教員によるオムニバス形式でしたが、授業の内容は一貫性がありましたか。(Q13) 説明は的確でしたか。(Q14) 説明は聞き取りやすかったですか。(Q15) スライド・動画はわかりやすかったですか。(Q16) 提示された資料(図・表・グラフなどのデータを含む)は内容を理解する上で役に立ちましたか。(Q17)</p> <p>-----</p> <p>特に「教員の説明は的確であった」、「スライドや動画はわかりやすかった」、「配付資料は理解に役立つ」といった項目では、「強くそう思う」「そう思う」の回答が9割前後を占めていた【「データサイエンスの世界」2025前期アンケート結果(概要)】。この結果から、間接的ではあるが、教材や教員の説明が学生の理解を支えていたことが確認された。一方で、アンケート設問Q9「担当教員に対してLearning Management System上のディスカッション機能やメール等で質問を行ったか」では、約6割の学生が質問を行ったと回答しており、授業外での教員への質問活動も積極的に行われていたことが確認された。</p> <p>本プログラムでは、オンデマンド形式の特性上、授業中に学生の理解度を即時に確認する機会が限られていた。そのため、理解度を定量的に測る仕組み(小テストやクイズ機能など)は未導入であり、理解状況の把握は課題提出物やアンケートの自由記述を通じた間接的確認にとどまった。</p> <p>この点を課題として、次年度以降は、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・LMS上に小テストや確認クイズを設け、各単元終了後に理解度を可視化する。</li> <li>・質問スレッドやフォローアップ掲示板を設置し、学修支援を強化する。</li> <li>・評価基準を明示し、学生自身が到達度を自己確認できるようにする。</li> </ul> <p>これらの取組を通じて、今後は「授業の理解しやすさ」から一歩進んだ「学修内容をどこまで理解・活用できているか」の可視化を図ることも検討すべきと考える。</p>
	<p>学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度</p>	<p>自己評価A 学生アンケートにおける自由記述では、「この授業を他の学生にも勧めたい」「データやAIに関する内容が興味深く、学びが広がった」との意見が多く見られた【「データサイエンスの世界」2025前期アンケート結果(概要)】。定量的な推奨度を尋ねる設問は設定されていなかったため数値を明示することはできないが、自由記述からは後輩や他学部学生への推奨意向を示す記述が複数確認された。これらの記述から、履修者が本プログラムを肯定的に受け止めていることがうかがえる。授業形式(オンデマンド型)や教員の対応に対して肯定的な意見が多数寄せられ、学修支援体制の有効性が確認された。</p>
	<p>全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p>	<p>自己評価A 授業は、夏期及び春期の集中講義として実施され、各回800名を上限に募集した【様式3 教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画】。履修登録は学生周知サイトを介したオンライン申請で行い、抽選制を導入している。履修希望者が定員を超過した場合には抽選を実施し、漏れた学生に対しては所属学部が履修指導を行う仕組みを整備している。授業方法は全学Learning Management Systemを用いたオンデマンド型で統一され、メタバースを活用したリアルタイム講義も併用された【様式3 教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画】。これにより、全国のキャンパス間で均一な教育環境が提供された。履修者数・修了者数ともに初年度として安定しており、履修率向上に向けた体制が整備されている。</p>
<p>学外からの視点</p>		
	<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<p>自己評価B 令和7年度は本プログラムの初年度であり、卒業後の進路や企業評価に関するデータは現時点では未収集である。授業アンケートにおいて、「今後の就職や研究活動に役立つ内容であった」とする学生が8割を超えた【「データサイエンスの世界」2025前期アンケート結果(概要)】。この結果から、社会的な実践を意識した学修が学生のキャリア形成に一定の効果を及ぼしていることがうかがえる。</p>
	<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>自己評価A 授業では、AIやデータが社会でどのように活用されているかを取り上げ、実際の企業事例や社会的課題を題材にした内容を含んでいる【「データサイエンスの世界」(2025年度前期)授業構成】。学生アンケートの自由記述には「Google社員やAI専門家による講義が印象的だった」との意見があり【「データサイエンスの世界」2025前期アンケート結果(概要)】、外部専門家による講義または事例紹介が教育効果を高める要因となっていた可能性がある。これらの記述から、実社会との関連を意識した教育内容が一定程度実現されていたことが確認できる。</p>

<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>自己評価A アンケートの自由記述では、「AIが身近に感じられた」、「データで考える楽しさを実感した」という記述が多く見られた【「データサイエンスの世界」2025前期アンケート結果(概要)】。授業では、データ可視化、プログラミング演習、プレゼンテーション発表などを通じて、実際に「使う・見せる・伝える」体験を重視している【「データサイエンスの世界」(2025年度前期)授業構成】。これにより、受動的な講義形式に留まらず、能動的な理解を促す設計となっている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>自己評価A 本学は、教育内容の質を維持・向上するため、数理・データサイエンス・AI教育プログラム検討ワーキンググループ(WG)及び検証WGを設置し、教材更新・評価・改善を定期的(おおよそ半期に一度)に実施してきた。授業改善の具体例として、生成AI(大規模言語モデル・拡散モデル等)を扱う授業を追加し、新しい技術への理解と対応を試みた。学生アンケートでは、「資料が見やすくなった」「メタバース環境がリアルに近い」との肯定的意見が見られる一方で、「操作性」や「通信負荷」に関する改善要望もあった【「データサイエンスの世界」2025前期アンケート結果(概要)】。 これを踏まえ、令和8年度にはメタバース環境の再構築及びオンデマンド動画のチャプター再生機能の追加、AIツールを活用した教材自動生成・質問応答支援の導入も検討すべき課題である。</p> <p>総括 本プログラムは、令和7年度に全学的導入を果たし、授業設計・教材の一貫性、学生の理解度・満足度の面で高い評価を得た。 一方で、質問活動の活性化、メタバース操作環境の改善など、今後の課題も確認された。本年度の自己点検結果から、教育内容・運営体制が概ね適正に機能していることが検証された。</p>

令和7年度「データサイエンスの世界」シラバス

授業科目名 (クラス)				データサイエンスの世界					
				Outline of Data Science					
設置学年	1	単位数	2	学期	2025年度 前学期・後学期	授業区分	夏期集中 ( 3 クラス ) 春期集中 (最大5クラス)	授業形態	講義
担当教員名				<p>&lt; 責任教員 &gt; 大熊康典 (生産工学部)</p> <p>&lt; 副責任教員 &gt; 中村文紀 (理工学部)</p> <p>&lt; 担当教員 &gt; 坂本力也 (法学部), 大澤正彦 (文理学部), 佐藤佑介 (商学部), 遠山岳史 (理工学部), E. H. Jego (医学部), 篠田雅路 (歯学部), 古賀徹 (通信教育部)</p>					
対応ディプロマポリシー (DP)				DP1, DP2, DP3, DP4, DP6, DP8					
授業の方法				<p>オンライン授業 (一部の授業回で日時に縛りがあるオンデマンド型) で実施。第1回から第6回, 第8回から第12回 のいずれも午前9時にCanvas LMSで授業内容を公開する。無理なく学修するため, 原則として別途提示する「モデル スケジュール」に従って受講することを推奨する。中間課題ならびに期末課題は, 実施日の午後1時にそれぞれ公開す る。また, 第13回については, 当該日の正午までに受講者がプレゼンテーション動画をアップロードし, 午後2時よ り視聴とピア評価 (学生間相互評価), ディスカッションを行う。データサイエンスやAIの現況を知ること, 他者が作 成したデータを読むことだけに終始するのではなく, 自らデータを取得して加工や可視化を行いながら, エビデンスに 基づいた議論が行える素地を醸成する。</p> <p>※中間課題, 期末課題については, 各授業回及び事前・事後学修で作成したノートを元に取り組むこと。</p> <p>&lt; 授業内容 &gt;</p> <p>第1回: 数理・データサイエンス・AIと現代社会①</p> <p>第2回: 数理・データサイエンス・AIと現代社会②</p> <p>第3回: データの種類とその読み方①</p> <p>第4回: データの種類とその読み方②</p> <p>第5回: データ説明の実践① [人文社会系データ]</p> <p>第6回: データ説明の実践② [理工系・医療系データ]</p> <p>第7回: 中間課題, データ・AI活用の現場と動向</p> <p>第8回: データを守る①</p> <p>第9回: データを守る②</p> <p>第10回: データ作成の実践① [Google環境]</p> <p>第11回: データ作成の実践② [MATLAB/テキストマイニング]</p> <p>第12回: データ作成の実践③ [AI・機械学習]</p> <p>第13回: プレゼンテーションとディスカッション</p> <p>第14回: 期末課題とフィードバック</p>					
GIO/SBOs				<p>&lt; GIO &gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. データやAIが現代社会でどのように活用されているかを理解する 【MC-1】</li> <li>2. データを適切に読み解く力を身に付ける 【MC-2】</li> <li>3. データやAIの運用スキルを身に付ける 【MC-2】</li> <li>4. 情報保護やセキュリティをはじめとするデータやAIの運用に係る留意点を理解する 【MC-3】</li> </ol> <p>&lt; SBOs &gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. データやAIの現代社会における活用の現況について説明することができる 【DP-2】</li> <li>2. さまざまなデータを読み, データの内容について説明することができる 【DP-3, 4】</li> <li>3. 提示されたデータに基づいて, 自身の考えを客観的に振り返ることができる 【DP-3, 4, 8】</li> <li>4. 自身の考えに関するエビデンスを, データを用いて表現することができる 【DP-3, 4, 6】</li> <li>5. AIの利点やリスクを踏まえて, AIを活用することができる 【DP-3, 4】</li> <li>6. 情報保護やセキュリティをはじめとするデータを守る上で必要な事項について説明することができる 【DP-1】</li> </ol>					

授業概要			
第1回	担当教員	大熊康典, 中村文紀, 大澤正彦	
事前学修	シラバスを熟読し, この科目の趣旨や目的, 授業方法を理解する。また, コンピューター操作を確認し, 授業で必要となるツール (Googleスプレッドシートなど) が使用できるかを実践する。	学修時間	60 分
講義内容	【数理・データサイエンス・AIと現代社会①】 (授業時間: 100分) 本科目の概要と受講方法等について理解した上で, データサイエンスやAIの現代社会における利活用の現況や注目・重要視される理由, 今後の展望について理解を深める。 [MC対応] 1-1 社会で起きている変化, 1-2 社会で活用されているデータ, 1-3 データ・AIの活用領域, 1-5 データ・AI利活用の現場		
事後学修	授業で視聴した動画を再度確認し, データサイエンスやAIで学ぶ内容を理解するとともに, 次回以降の授業の流れを把握する。講義で紹介されたデータサイエンスやAIの活用事例を振り返り, その影響や今後の展望について簡単にまとめる。	学修時間	120 分
第2回	担当教員	大熊康典, 中村文紀, 大澤正彦	
事前学修	データサイエンスやAIが活用されている具体的な事例を調べ, どのようなデータが使われ, どのような価値が生まれているのかを簡単にノートにまとめる。また, データ分析の基本的な目的 (傾向の把握, 予測, 意思決定支援など) を確認し, データサイエンスやAIの役割について自身の考えをノートにまとめる。	学修時間	120 分
講義内容	【数理・データサイエンス・AIと現代社会②】 (授業時間: 100分) 第1回より踏み込んで, 具体的な事例を基に, データサイエンスやAIの役割やデータ分析について学び, 利用するメリットやどのような価値が生まれているかを理解する。また, 生成AI技術の最新動向について学ぶ。 [MC対応] 1-1 社会で起きている変化, 1-3 データ・AIの活用領域, 1-4 データ・AI利活用のための技術, 1-5 データ・AI利活用の現場, 1-6 データ・AI利活用の最新動向		
事後学修	提示された資料等について他のデータも参考にしながら調べ, データサイエンスやAIの活用を深く理解して説明できるようにまとめる。身近な具体例を挙げ, 活用されるデータや生まれる価値を整理し, データサイエンスやAIの役割を説明できるようにまとめる。	学修時間	120 分
第3回	担当教員	大熊康典, 中村文紀, 佐藤佑介	
事前学修	データの種類について調べ, それぞれの特徴を理解して説明できるようにノートにまとめる。また, 基本統計量 (平均, 中央値, 標準偏差など) の意味と計算方法を確認し, 統計分析でどのように活用されるかを整理してノートにまとめる。さらに, オープンデータの概要と利用分野を簡単にノートにまとめる。	学修時間	120 分
講義内容	【データの種類とその読み方①】 (授業時間: 100分) データの種類を理解した上で, 集計データを基に基本統計量と標本の在り方について学ぶ。その後, 実際のデータを用いて基礎的な演習を行う。 [MC対応] 2-1 データを読む, 2-3 データを扱う, 3-1 データ・AIを扱う上での留意事項		
事後学修	講義で学んだデータの種類や基本統計量の計算方法を復習し, 統計指標の意味を整理する。オープンデータを活用した演習を振り返り, データの集計や分析の手順を確認する。	学修時間	120 分
第4回	担当教員	大熊康典, 中村文紀, 佐藤佑介	
事前学修	統計の基本的な概念 (平均, 中央値, 最頻値, 分散, 標準偏差) を復習する。また, ヒストグラムと散布図の役割や作成方法を理解し, 具体的なデータを用いて説明できるようにノートにまとめる。	学修時間	120 分
講義内容	【データの種類とその読み方②】 (授業時間: 100分) 第3回の学修内容確認を行った上で, ヒストグラムや折線グラフ, 散布図といったグラフを用いた可視化の手法を学ぶ。その後, 実際のデータ (オープンデータ) を用いて基礎的な演習を行う。 [MC対応] 1-2 社会で活用されているデータ, 1-4 データ・AI利活用のための技術, 2-1 データを読む, 2-2 データを説明する, 2-3 データを扱う		
事後学修	提示されたデータ (気温, 身長など) を基に, 平均, 中央値, 標準偏差を計算し, 統計指標の意味を理解し, 説明する。ヒストグラムを作成してデータの分布を可視化し, 統計処理の基礎を実践的に学ぶ。	学修時間	120 分

第5回	担当教員	中村文紀, 古賀徹		
事前学修	人文社会系のデータの特徴を調べ、どのような形で収集・整理されるかを理解して説明できるようにノートにまとめる。また、社会調査や統計データの活用事例を確認し、データがどのように分析・説明されているかを考察し、自身の考えをノートにまとめる。	学修時間	120 分	
講義内容	<p>【データ説明の実践①[人文社会系データ]】(授業時間:100分)</p> <p>人文社会系のデータの特徴を理解した上で、そのデータ集計方法や表現方法、分析の仕方について学ぶ。その後、実際のデータを用いて基礎的な演習を行う。</p> <p>[MC対応] 1-2 社会で活用されているデータ、1-5 データ・AI 利活用の現場、2-1 データを読む、2-2 データを説明する、2-3 データを扱う</p>			
事後学修	与えられたデータを整理し、データの特徴や傾向を説明できるようにまとめる。実際の社会調査や統計データを用いた分析事例を調べ、どのようにデータが活用されているかを考察し、自身の考えをまとめる。	学修時間	120 分	
第6回	担当教員	中村文紀, 遠山岳史, 篠田雅路		
事前学修	理工系・医療系のデータの特徴を調べ、どのような形で収集・整理されるかを理解して説明できるようにノートにまとめる。また、実際の研究や医療統計の活用事例を調べ、データがどのように分析・解釈されているかを考察し、自身の考えをノートにまとめる。	学修時間	120 分	
講義内容	<p>【データ説明の実践②[理工系・医療系データ]】(授業時間:100分)</p> <p>理工系・医療系データを例にして、外部データの取り込み方法を学ぶ。その後、取り込みデータから作図し、データを可視化する。また、データ信頼性についてもあわせて学ぶ。</p> <p>[MC対応] 1-2 社会で活用されているデータ、1-5 データ・AI 利活用の現場、2-1 データを読む、2-2 データを説明する、2-3 データを扱う、4-3 データ構造とプログラミング基礎、4-6 画像認識</p>			
事後学修	与えられたデータを整理し、データの特徴や傾向を説明できるようにまとめる。実際の研究データや医療統計の活用事例を調べ、どのようにデータが分析・解釈されているかを考察する。	学修時間	120 分	
第7回	担当教員	大熊康典, 中村文紀, 坂本力也, 大澤正彦, 佐藤佑介, 遠山岳史, E. H. Jogo, 篠田雅路, 古賀徹		
事前学修	これまでの講義内容についてノートを活用して復習し、データの分類・読み解き・説明方法について理解を深める。また、データの社会での活用事例を振り返り、データサイエンスやAI、データ分析の役割を確認し、理解をより確実なものにする。	学修時間	180 分	
講義内容	<p>【中間課題、データ・AI 利活用の現場と動向】(授業時間:100分)</p> <p>中間課題として、現代社会におけるデータサイエンスやAIの概況や利活用の現状についての理解度と、データの読み解きと説明する力について確認を行う。</p> <p>[MC対応] 第1回から第6回の全事項</p> <p>中間課題後にはこれまでの授業に関する振り返りやフィードバックを行ったのち、世界各国でのAIの利活用についてデータを基に議論を行いながら、あらためて本科目の意味や意義について考える機会とする。</p> <p>[MC対応] 1-1 社会で起きている変化、1-2 社会で活用されているデータ、1-3 データ・AI の活用領域、1-4 データ・AI利活用のための技術、1-5 データ・AI 利活用の現場、1-6 データ・AI 利活用の最新動向、2-1 データを読む、2-2 データを説明する、2-3 データを扱う、3-1 データ・AI を扱う上での留意事項、4-3 データ構造とプログラミング基礎、4-6 画像認識</p>			
事後学修	中間課題を振り返り、現代社会におけるデータサイエンスやAIの概況について理解を深める。データサイエンスやAIの活用事例を調べ、考察する。	学修時間	60 分	
第8回	担当教員	中村文紀, 大澤正彦, 坂本力也		
事前学修	守るべきデータの種類(個人データ、機密データ、公開データ)を調べ、それぞれの特徴と管理の違いや関連する法令を整理してノートにまとめる。また、近年のデータ流出や情報漏洩の事例を調べ、その原因や影響について簡単にノートにまとめる。	学修時間	120 分	
講義内容	<p>【データを守る①】(授業時間:100分)</p> <p>守るべきデータの種類を理解し、適切な管理の重要性を学ぶ。また、データやAIの活用における負の事例等を参照しながら、データ保護に関する法律やガイドラインについて理解を深める。</p> <p>[MC対応] 3-1 データ・AI を扱う上での留意事項、3-2 データを守る上での留意事項</p>			
事後学修	講義で学んだデータの管理方法を振り返り、データ流出のリスクを防ぐための具体的な対策を整理する。データ保護に関する法律やガイドラインの要点を確認し、適切なデータ管理の重要性を再認識する。	学修時間	120 分	

第9回	担当教員	中村文紀, 大澤正彦, 坂本力也		
事前学修		データ共有のリスクについて調べ, 安全なデータ送信方法(暗号化, パスワード付きファイルなど)がどのように機能するのかを理解して説明できるようにノートにまとめる。また, 不正アクセスの事例を調べ, どのような被害が発生したのかを簡単にノートにまとめる。	学修時間	120 分
講義内容		<p>【データを守る②】(授業時間:100分)</p> <p>データの適切な取り扱い方法を学ぶことを目的とし, データ共有のリスクや安全な送信方法(暗号化, パスワード付きファイル)を学ぶ。また, アクセス管理の重要性を理解し, アクセス権の設定や不正アクセス対策について学修する。さらに, サイバー攻撃の種類と対策について知識を深める。</p> <p>[MC対応] 3-1 データ・AIを扱う上での留意事項, 3-2 データを守る上での留意事項</p>		
事後学修		講義で学んだ安全なデータ共有・送信方法やアクセス管理の重要性を振り返り, 実践的な対策を整理する。サイバー攻撃の種類とそれに対する具体的な防御策を確認し, 安全なデータ運用について理解を深める。	学修時間	120 分
第10回	担当教員	大熊康典, 中村文紀, 佐藤佑介		
事前学修		Googleスプレッドシートの基本機能を調べ, データ入力や書式設定, フィルタ機能の使い方を確認する。また, AVERAGE, MEDIAN, STDEVなどの基本的な関数の使い方を調べ, データ処理にどのように活用できるかを理解して説明できるようにノートにまとめる。	学修時間	150 分
講義内容		<p>【データ作成の実践①[Google環境]】(授業時間:100分)</p> <p>Googleスプレッドシートを用いて, 基礎的な関数と集計, グラフ化について確認したのち, データ分析に使える関数やスプレッドシート固有の関数について学ぶ。その後, スプレッドシートのデータを踏まえたLooker Studioでの可視化について学ぶ。</p> <p>[MC対応] 1-2 社会で活用されているデータ, 1-4 データ・AI利活用のための技術, 1-5 データ・AI利活用の現場, 2-2 データを説明する, 2-3 データを扱う, 4-7 データハンドリング</p>		
事後学修		講義で学んだGoogleスプレッドシートの関数を用いた統計計算やピボットテーブルの活用を復習し, データ整理と簡易集計の手順を整理する。Looker Studioとの連携手順を振り返り, ダッシュボード作成の流れを理解して説明できるようにまとめる。	学修時間	150 分
第11回	担当教員	大熊康典, 中村文紀, 遠山岳史		
事前学修		「MATLAB入門」コースを受講し, データ処理や統計計算の活用方法を理解して説明できるようにする。また, 平均や標準偏差の計算方法を復習し, テキストマイニングの概要を確認する。文章データの分析・可視化の手法について簡単にノートにまとめる。	学修時間	150 分
講義内容		<p>【データ作成の実践②[MATLAB/テキストマイニング]】(授業時間:100分)</p> <p>数値解析ソフトウェアMATLABを用いて, 初歩的な計算や基本統計量の算出, データ処理方法を修得する。また, 作図によるデータの可視化方法を学び, 動画データを基にした物体検知・物体認識の手法を理解し, 画像解析を通じたデータの可視化を実践する。あわせて, テキストマイニングを用いて文章データを分析する方法を学ぶ。</p> <p>[MC対応] 2-2 データを説明する, 2-3 データを扱う, 4-1 統計および数理基礎, 4-5 自然言語処理, 4-6 画像認識, 4-7 データハンドリング</p>		
事後学修		講義で学んだMATLABの基本操作を復習し, データの計算・処理・可視化の方法を整理する。テキストマイニングの手法を振り返り, 実際の文章データを用いた可視化の手順を確認する。	学修時間	150 分

第12回	担当教員	大熊康典, 中村文紀, 大澤正彦		
事前学修		AIや機械学習の基本概念を調べ、それらがどのような場面で活用されているかを理解して説明できるようにノートにまとめる。また、機械学習に用いるデータの特徴や、学習に適したデータの形式について簡単にノートにまとめる。	学修時間	150 分
講義内容		【データ作成の実践③ [AI・機械学習]】 (授業時間: 100分) AIの入門として、画像分類を題材にディープラーニングの基礎を修得する。事前学習済みネットワークを使用した予測について学んだ後、転移学習を使用してイメージ分類ネットワークの学習を実践する。 [MC対応] 2-2 データを説明する, 2-3 データを扱う, 4-6 画像認識, 4-7 データハンドリング		
事後学修		講義で学んだ機械学習のアルゴリズムやモデルの学習・評価方法を整理し、適用事例を確認する。データの可視化手法やモデルの予測結果のグラフ表現について復習し、どのように解釈すべきかを考察して自身の考えをまとめる。	学修時間	150 分
第13回	担当教員	大熊康典, 中村文紀, 坂本力也, 大澤正彦, 佐藤佑介, 遠山岳史, E. H. Jego, 篠田雅路, 古賀徹		
事前学修		これまでの講義内容についてノートを活用して復習し、自分の興味のあるデータ収集・分析のテーマを考え、どのようなデータを収集できるかを調べる。また、データの可視化に適したグラフやダッシュボードの種類を確認し、効果的なプレゼンテーションのポイントを整理する。	学修時間	240 分
講義内容		【プレゼンテーションとディスカッション】 (授業時間: 100分) 各自、興味のあるデータ収集・分析のテーマを選定し、第10回, 第11回, 第12回目で学んだ手法 (Googleスプレッドシート, MATLAB, ディープラーニング) を活用しながら、情報の可視化やAIの活用の実践を行う。作成したデータを基に動画によるプレゼンテーションを行い、学生間のピア評価を行う。 [MC対応] 第1回から第12回の全事項		
事後学修		作成したプレゼンテーション動画を振り返り、伝えたい情報が適切に表現されているかを確認する。他の発表と比較し、より効果的なデータの可視化や説明方法について考察し、次回以降の発表に活かせるポイントをまとめる。	学修時間	120 分
第14回	担当教員	大熊康典, 中村文紀, 坂本力也, 大澤正彦, 佐藤佑介, 遠山岳史, E. H. Jego, 篠田雅路, 古賀徹		
事前学修		これまでの講義内容についてノートを活用して振り返り、データの分類・分析・可視化・説明・保護に関する重要なポイントを整理してノートにまとめる。また、過去の課題や発表を見直し、自身の理解が不足している点や補強すべき部分を確認してノートにまとめる。。	学修時間	180 分
講義内容		【期末課題と総括】 (授業時間: 50分) 本講義の振り返りを行った後、Canvasを用いて期末課題を実施する。授業の最後に、これまでの学びの活用方法や今後の学修の指針について簡単にまとめる。 [MC対応] 第1回から第13回の全事項		
事後学修		期末課題を振り返り、理解を深める。これまでの学びをどのように実践で活かせるかを考え、今後のデータ活用や数理・データサイエンス・AIに関する学修の指針を整理する。	学修時間	60 分

成績評価方法			
試験	20 %	評価基準	中間課題（第7回）：8点 期末課題（第14回）：12点
授業内課題	72 %	評価基準	授業内課題（第1～13回）：72点 第1回：2点、第2回～第12回：6点、第13回：4点
プレゼンテーション	8 %	評価基準	第13回 8点（ピア評価は第13回授業内課題として別途評価）
備考	全学共通LMSのコンテンツを、指示に従って第1回から第14回までの講義を全て受講すること		

使用する教科書・参考書／Required textbooks and Reference books	
教科書1／Required textbooks1	
著者名／Authors	MathWorks
書名／Title of books	MATLAB および Simulink トレーニング
出版社／Publishers	<a href="https://jp.mathworks.com/learn/training.html?s_tid=gn_trg_ov">https://jp.mathworks.com/learn/training.html?s_tid=gn_trg_ov</a>
ISBN	
備考／Remarks	

連絡先	
オフィスアワー（後学期）	Canvas（LMS）で対応
研究室／Teacher's room	

# 日本大学短期大学部学則

## 第1章 総 則

### 第1節 目的及び使命

第1条 本短期大学部は、日本大学建学の精神にのっとり、一般教養との密接な関連の基に、科学的で実際的な専門教育を施し、善良な社会人を育成することを、目的及び使命とする。

### 第2節 組 織

第2条 本短期大学部は、次の学科をもって組織する。

学 科 名
ビジネス教養学科 食物栄養学科 建築・生活デザイン学科 ものづくり・サイエンス総合学科

2 本短期大学部専攻科は、次のとおりである。

専 攻 名
食物栄養専攻

3 第1項に定める学科及び第2項に定める専攻科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的については、別表1に定める。

### 第3節 教職員及び教授会

第3条 本短期大学部の教員を分けて教授・准教授・講師・助教及び助手とする。

2 教職員に関する規定は、別に定める。

第4条 本短期大学部に教授会を置き、各学科所在地の地域性を考慮して、次の区分により構成するものとする。

- ① 三 島 ビジネス教養学科，食物栄養学科
- ② 船 橋 建築・生活デザイン学科，ものづくり・サイエンス総合学科

2 教授会は、構成区分ごとの専任教授全員，3名以内の専任准教授代表並びに事務局長をもって組織する。

3 短期大学部次長及び学科長は、所属学部にかかわらず当該区分の専任教授とみなす。

- 4 3名以内の専任准教授代表は、構成区分ごとに選出するものとする。
- 5 事務局長は、当該区分を担当する当該関連学部事務局長をもって充てる。
- 第5条 教授会は、当該区分担当の短期大学部次長が招集し、その議長となる。
- 第6条 教授会は、総会員の半数以上の出席によって成立する。
- 第7条 議長は、議事録を作成し、出席者中2名の署名押印を得るものとする。
- 第8条 教授会は、次の事項を審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- ① 学生の入学及び卒業に関すること。
- ② 学位の授与に関すること。
- ③ 前2号に掲げる事項のほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項。

- 2 前項第3号の事項については、別に定める「学長裁定」による。
- 3 教授会は、第1項に規定するもののほか、学長がつかさどる教育研究に関する事項について教育研究上の専門的な観点から審議し、及び学長の求めに応じ、意見を述べることができる。

なお、本大学の諸規程において教授会が審議することと定められている事項については、教授会はこれを審議し、意見を述べなければならない。

- 4 教授会の意見を集約する必要がある場合は、出席者の過半数によるものとする。

第9条 教授会における審議とは、論議・検討することを意味し、決定権を含意するものではない。

#### 第4節 学生定員

第10条 本短期大学部学生の定員は、次のとおりである。

学 科	毎年入学定員	収容定員
ビ ジ ネ ス 教 養 学 科	60	120
食 物 栄 養 学 科	0	0
建 築 ・ 生 活 デ ザ イ ン 学 科	102	204
も の づ く り ・ サ イ エ ン ス 総 合 学 科	78	156
計	240	480

- 2 本短期大学部専攻科の学生定員は、次のとおりである。

専 攻	毎年入学定員	収容定員
食 物 栄 養 専 攻	20	40

## 第5節 学年・学期及び休業日

第11条 学年は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第12条 学期は、次のとおりとする。ただし、事情によって異なる場合がある。

前学期 4月1日から9月30日まで

後学期 10月1日から3月31日まで

第12条の2 1年間の授業期間は、定期試験等の期間を含め35週にわたることを原則とする。

第13条 休業日は、次のとおりとする。ただし、休業日でも特に授業又は試験を行うことがある。

- ① 日曜日
- ② 国民の祝日に関する法律に規定する休日
- ③ 日本大学創立記念日（10月4日）
- ④ 春季休業 3月11日から3月31日まで
- ⑤ 夏季休業 7月11日から9月10日まで
- ⑥ 冬季休業 12月21日から翌年1月10日まで

2 休業日の変更及び臨時の休業については、そのつどこれを定める。

## 第6節 入学・在学・休学・復学・留学・退学及び除籍

第14条 入学の時期は、学年の始め又は学期の始めとする。

第15条 本短期大学部に、入学することのできる者は、次の各号の一に該当する資格を持ち、本短期大学部の選抜試験に合格した者とする。

- ① 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- ② 通常の課程による12年の学校教育を修了した者  
(通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む)
- ③ 外国において、学校教育による12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- ④ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- ⑤ 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他文部科学大臣が定める基準を満たすものに限り）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者
- ⑥ 文部科学大臣の指定した者

⑦ 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）による大学入学資格検定に合格した者を含む）

⑦の2 学校教育法第90条第2項の規定により大学に入学した者であって、高等学校卒業程度認定審査規則（令和4年文部科学省令第18号）による高等学校卒業程度認定審査に合格した者

⑧ その他本短期大学部において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの

第16条 入学を志願する者は、各学科所定の手続によって願出するものとする。

第17条 入学の選抜試験に合格した者は、所定の期日までに入学手続を完了しなければならない。

第18条 修業年限とは、本短期大学部の教育課程を修了するために必要な期間のことをいう。

2 在学年限とは、本短期大学部において学生の身分を有することができる期間のことをいう。

3 修業年限は、最低2年とし、在学年限は、4年とする。

4 前項の規定にかかわらず、学生が職業を有している等の事情により、修業年限を超えて在学年限の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

第19条 （削除）

第20条 休学とは、病気その他やむを得ない事由により、3か月以上修学できない状態のことをいう。

2 復学とは、休学期間満了によって、再び修学することをいう。

3 休学しようとする者は、その事実を証明する書類を添え、保証人連署で願出、その許可を得て原則として入学年度を除き、休学することができる。ただし、入学年度の後学期については、修学困難な事由の場合は認めることがある。

4 休学期間は、1学期又は1年とし、通算して在学年限の半数を超えることができない。

5 休学者は、その事由が解消された場合、保証人連署で願出、許可を得て復学することができる。

6 休学者は、学期の始めでなければ復学することができない。

7 休学期間は、在学年数に算入する。

第21条 (削除)

第22条 留学とは、本短期大学部が教育上有益と認めたときは、休学することなく、外国の大学において、許可を得て一定期間修学することをいう。

2 留学の期間は、修業年数に算入する。

第23条 退学とは、在学の中途において在籍関係を解除することをいう。退学には、その手続により、次のものがある。

① 病気その他やむを得ない事由による、学生の意志に基づく願出によるもの。

ただし、その事実を証明する書類を添え、保証人連署で退学願を提出して、許可を受けなければならない。

② 学生が死亡したことによる、保証人からの届出によるもの

③ 第25条に基づく除籍によるもの

④ 第50条及び第51条に基づく懲戒によるもの

2 第32条に基づく年度のGPAが1.50未満で、修学指導の結果、改善が見込まれないと判断した場合は、退学勧告を行う。

第24条 再入学とは、病気その他やむを得ない事由によって退学した者が、当該学科に再び入学することをいう。

2 病気その他やむを得ない事由によって退学した者が、その事由が解消し、当該学科に再入学を志望したときは、退学前に在籍していた学科の定員に余裕があり、かつ、在学生の学修に支障がないと認めた場合に限り、選考の上再入学を許可することがある。この場合には、既修の授業科目の全部又は一部の再履修を命ずることがある。

3 再入学できる者は、次の各号に該当するものとする。

① 本短期大学部に原則として1年以上在学し、再入学しようとする学科が定める単位数を修得している者

② 病気その他やむを得ない事由で退学した者

③ 人物及び在学中の成績が妥当な者

4 除籍によって退学になった者については、事情勘案の上、前項に準じて再入学を認めることができる。

5 再入学の学科については、原則として退学時の学科とする。

- 6 再入学を願い出た者については、学科の所定の手続によって願い出るものとする。
- 7 再入学の選考に合格した者は、学科の所定の期日までに手続を完了しなければならない。
- 8 再入学の時期は、学年の始め又は学期の始めとする。
- 9 再入学の年次は、退学時の学年次を原則とするが、修得単位数等の事情により年次を下げても許可することができる。また、学年末の退学者については、修得単位数等の事情により年次を上げて入学を許可することができる。
- 10 再入学者の在学年限は、許可された再入学年次に応じ、第18条第3項に定める在学年限から再入学年次数を控除し、それに1を加えて得た年数とする。
- 11 再入学者は、再入学年次の教育課程によって履修するものとする。ただし、学則変更等の事情により再入学前の入学年度の教育課程によることができる。
- 12 退学前の既修単位は認定する。ただし、教育課程等の変更により、退学前の既修単位が認定されないことがある。

第25条 除籍とは、学生の帰すべき事由により在籍関係を強制的に解除し、退学させることをいう。

2 次の各号のいずれかに該当する者は、除籍することができる。

- ① 故なくして学費の納付を怠った者
- ② 故なくして欠席が長期にわたる者
- ③ 在学年限を超えた者

第26条 (削除)

第27条 (削除)

### 第7節 履修規定、卒業及び短期大学士の学位

第28条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

- ① 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で短期大学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- ② 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で短期大学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- ③ 講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により授業を行う場合については、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して短

期大学部が定める時間の授業をもって1単位とする。

- 2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定めることができる。

第29条 前条に規定する講義、演習、実験、実習又は実技による授業は、文部科学大臣が別に定めるところによって、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

第30条 学業成績は、授業科目ごとに行う試験によって、これを定める。ただし、授業科目によっては、その他の方法で査定することができる。

- 2 試験には、平常試験・定期試験・追試験及び再試験がある。

- ① 平常試験とは、当該授業科目履修者を対象に授業科目担当教員が学期の途中に適宜行う試験のことをいう。

- ② 定期試験とは、当該授業科目履修者を対象に大学の定めた試験期間中に行う試験のことをいう。定期試験は学期末又は学年末に行う。

- ③ 追試験とは、やむを得ない事由のため定期試験を受けることのできなかつた者のために行う試験のことをいう。

- ④ 再試験とは、受験の結果不合格となった者のために行う試験のことをいう。

- 3 追試験及び再試験は、当該学科において必要と認めたときに限り、これを行う。

第31条 修学についての所定の条件を備えていない者は、受験資格を失うことがある。

第32条 学業成績の判定は、S、A、B、C、D及びEの6種をもってこれを表し、S（100～90点）、A（89～80点）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）、E（履修登録したが成績を示さなかつたもの）をもって表し、S、A、B、Cを合格、D、Eを不合格とする。合格した授業科目については、所定の単位数が与えられる。

- 2 第1項の学業成績の学修結果を総合的に判断する指標として、総合平均点（Grade Point Average、以下「GPA」という）を用いることができる。

- 3 前項に定めるGPAは、学業成績のうち、Sにつき4、Aにつき3、Bにつき2、Cにつき1、D及びEにつき0をそれぞれ評価点として与え、各授業科目の評価点にその単位数を乗じて得た積の合計を、総履修単位数（P又はNとして表示された科目を除く）で除して算出する。GPAは、小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2位まで有効とする。

- 4 第1項の規定にかかわらず、履修登録後、所定の中止手続を取ったものはP、修得単位として認定になったものはNと表示する。

- 5 GPA算出の対象科目は、卒業要件単位数に含まれる授業科目（単位認定科目としてNと表示された科目を除く）とする。
- 6 GPAは、学期のGPA、年度のGPA及び入学時からの累積のGPAとする。
- 7 通年科目は、学期のGPA算出の際には、後学期のGPAに算入する。
- 8 授業科目を再履修した場合、累積のGPA算出の際には、直近の履修による学業成績及び単位数のみを算入するものとし、以前の学業成績及び単位数は算入しない。
- 9 試験において不正行為を行った場合は、処分を受けた条件に基づき、評価をE、評価点はなしとして取り扱う。

第33条 各学科を卒業するために必要な最低単位数は、第2章教育課程及び履修方法に定めるところによる。

- 2 学生が許可を受けて他の短期大学、専門職短期大学、大学又は専門職大学で履修した授業科目の単位については、当該学生が在籍する学科の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
- 3 前項の規定は、学生が許可を受けて外国の短期大学又は大学に留学する場合、外国の短期大学又は大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の短期大学又は大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。
- 4 学生が許可を受けて行う短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修は、当該学生が在籍する学科の授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。
- 5 学生が本短期大学部に入学する前に短期大学、専門職短期大学、大学又は専門職大学で履修した授業科目について修得した単位については、当該学生が在籍する学科の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
- 6 学生が本短期大学部に入学する前に行った第4項に規定する学修は、当該学生が在籍する学科の授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。
- 7 第2項及び第5項により修得したものとみなす単位並びに第4項及び第6項により与えることのできる単位は、合わせて30単位を超えない範囲で、卒業に必要な単位数に算入することができる。この場合において、第3項により当該学生が在籍する学科の授業科目の履修により修得したものとみなす単位数と合わせるときは、45

単位を超えないものとする。

第33条の2 第29条に規定する授業によって修得した単位は、30単位を超えない範囲で、卒業するために必要な単位数に算入することができる。

第34条 第18条に定める修業年限に達し、所定の授業科目及び単位を修得し、卒業した者に短期大学士の学位を授与する。

第34条の2 前条の学位に付記する専攻分野の名称は次のとおりとする。

学 科 名	専攻分野の名称
ビ ジ ネ ス 教 養 学 科	商 経 学
食 物 栄 養 学 科	栄 養 学
建 築 ・ 生 活 デ ザ イ ン 学 科	工 学
も の づ く り ・ サ イ エ ン ス 総 合 学 科	工 学 又 は 理 学

第34条の3 栄養士については別に定めるところによる。

#### 第8節 学費及び貸給費

第35条 授業料その他所定の学費は、別表2に定めるところにより納付するものとする。

2 再入学の学費の取扱いについては、別に定める。

3 休学及び留学を許可された学生の休学及び留学期間中の学費の取扱いについては、別に定める。

第36条 授業料を分納しようとする者は、事由を具して保証人連署で願い出るものとする。

第37条 証明手数料等については別表3の定めるところにより納付するものとする。

第38条 既納の学費は、返還しない。

第38条の2 停学を命ぜられた学生は、停学期間中も授業料を納付しなければならない。

第39条 学業人物ともに優秀な学生であって、学費支弁の方法のない者には、学費を減免し、又は貸与・給付することがある。

2 減免・貸給費については、別に定める。

#### 第9節 委託生・科目等履修生・聴講生・特別聴講学生及び外国人留学生

第40条 国又は公共団体から、一定の在学期間と履修科目とを定めて、入学を願い出た者に対しては、選考の上、委託生として入学を許可することがある。

第41条 委託生の入学資格については、第15条の規定を準用する。

第42条 委託生は、その履修した授業科目について試験を受けることができる。試験に合格した者には、願い出によって単位取得証明書を与える。

第43条 委託生として2年以上在学し、所属学科における所定の単位を取得した者には卒業証書を授与する。

第44条 委託生の授業料その他本短期大学部に納付するために必要な費用は、委託者が納付するものとする。

第45条 各学科において、1科目又は数科目の履修を希望する者に対して、科目等履修生として入学を許可することがある。

2 科目等履修生は、履修した授業科目について試験を受けることができる。試験に合格した者には、所定の単位を与えることができる。

3 科目等履修生の出願手続等は、別に定める。

第46条 各学科において、1科目又は数科目の聴講を希望する者に対して、聴講生として入学を許可することがある。

2 聴講を希望する者が出願手続等は、別に定める。

第46条の2 国内又は国外の他の短期大学、専門職短期大学、大学又は専門職大学の学生が本短期大学部の授業科目の履修を希望するときは、特別聴講学生として入学を許可することがある。

2 特別聴講学生の出願手続等は、別に定める。

第47条 外国人留学生の入学及び再入学については、第6節の規定を準用する。ただし、特別に選考を行い入学を許可することができる。

2 外国人留学生については、学修の必要に応じて第2章に掲げる授業科目の一部に代え又はこれに加えて日本語科目及び日本事情に関する科目（以下日本語科目等という）を開設することができる。

3 前項に定める日本語科目等の授業科目については、当該教授会がこれを審議する。

4 帰国生についても第1項及び第2項の規定を準用することができる。

第48条 委託生及び外国人留学生に関して、本節各条に規定しない事項については、本短期大学部学生に関する規定を準用する。

### 第10節 賞 罰

第49条 人物及び学業成績が優秀な者には、授賞することがある。

2 授賞に関する規定は、別に定める。

第50条 学生が本大学の規則・命令に背き若しくは大学の秩序を乱し、又は学生とし

ての本分に反する行為があった場合にはその情状によって懲戒を行うことがある。

第51条 懲戒は、退学・停学及び訓告の3種とする。

2 前項の退学は、次の各号のいずれかに該当する者について行う。

- ① 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- ② 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- ③ 正当の理由がなくて出席常でない者
- ④ 大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

3 停学とは、一定期間、授業の受講及び施設設備の利用等を禁止し、その他の課外活動等についても禁止することをいう。

4 訓告とは、文書で戒めることをいう。

5 懲戒の手續に関する規定は、別に定める。

#### 第11節 寄宿舍

第52条 寄宿舍に関する規定は、別に定める。

## 第2章 教育課程及び履修方法

### 第1節 ビジネス教養学科

第53条 ビジネス教養学科における授業科目及び単位数並びにその履修方法は、次のとおりである。履修方法に指定された50単位に加えて、さらに総合教育科目、外国語科目、保健体育科目、専門教育科目（許可を得て履修した他学科設置の専門教育科目を含む）から任意に12単位以上を選択履修し、合計62単位以上を修得しなければならない。

#### 1 全学共通教育科目

授 業 科 目	単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	履 修 方 法	備 考
自主創造の基礎	2	2		必修単位数2単位を修得しなければならない。	
日本を考える	2		2		

#### 2 基礎科目

授 業 科 目	単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	履 修 方 法	備 考
キャリアデザイン	2	2		必修単位数2単位を修得しなければならない。	

#### 3 総合教育科目

授 業 科 目	単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	履 修 方 法	備 考
哲 学	2		2	10単位以上を修得しなければならない。	
日 本 近 現 代 史	2		2		
世 界 近 現 代 史	2		2		
文 学	2		2		
文 章 表 現	2		2		
法 学	2		2		
日 本 国 憲 法	2		2		
社 会 学	2		2		
心 理 学	2		2		
経 済 学	2		2		
数 理 の 世 界	2		2		
データサイエンスの世界	2		2		

生 命 の 科 学	2		2		
調 査 統 計 論	2		2		

#### 4 外国語科目

授 業 科 目	単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	履 修 方 法	備 考
英 語 I	2	2		必修単位数4単位を修得しなければならない。	
英 語 II	2	2			
英 語 III	2		2		
英 語 IV	2		2		
海 外 語 学 実 習	2		2		

#### 5 保健体育科目

授 業 科 目	単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	履 修 方 法	備 考
スポーツ科学と健康	2	2		必修単位数2単位を修得しなければならない。	
ス ポ ー ツ 総 合	1		1		

#### 6 専門教育科目

授 業 科 目	単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	履 修 方 法	備 考
経 済 学 原 論	4	4		必修単位数8単位を含めて、30単位以上を修得しなければならない。	
経 済 史	2		2		
財 政 学	2		2		
国 際 関 係 論	2		2		
商 学 総 論	2		2		
マ ー ケ テ ィ ン グ 論	2		2		
消 費 者 行 動 論	2		2		
流 通 シ ス テ ム 論	2		2		
マ ス メ デ ィ ア 論	2		2		
金 融 ビ ジ ネ ス 論	2		2		
税 法	2		2		
経 営 学 総 論	4		4		
国 際 経 営 論	2		2		
経 営 史	2		2		
地 域 産 業 論	2		2		
ビ ジ ネ ス 法 務 基 礎	2		2		

簿記論	4		4	
経営法規	2		2	
会計学	2		2	
原価計算論	2		2	
情報処理実習Ⅰ	1	1		
情報処理実習Ⅱ	1	1		
情報処理概論	2		2	
ビジネス文書Ⅰ	1		1	
ビジネス文書Ⅱ	1		1	
インターンシップ	2		2	
ビジネスマナー	2		2	
コミュニケーションとプレゼンテーション	2		2	
ビジネス英語Ⅰ	1		1	
ビジネス英語Ⅱ	1		1	
ホスピタリティ産業論	2		2	
観光ビジネス論	2		2	
観光法規	2		2	
国内観光地理	2		2	
海外観光地理	2		2	
国内観光実務	2		2	
海外観光実務	2		2	
国際関係論入門	2		2	
国際文化論入門	2		2	
ジェンダー論	2		2	
現代社会論	2		2	
基礎ゼミナール	2	2		
特殊講義Ⅰ	2		2	
特殊講義Ⅱ	2		2	

## 第2節 食物栄養学科

第54条 食物栄養学科における授業科目及び単位数並びにその履修方法は、次のとおりである。履修方法に指定された52単位に加えて、さらに総合教育科目、外国語科目、保健体育科目、専門教育科目（許可を得て履修した他学科設置の専門教育科目を含む）から任意に10単位以上を選択履修し、合計62単位以上を修得しなければならない。

### 1 全学共通教育科目

授 業 科 目	単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	履 修 方 法	備 考
自主創造の基礎	2	2		必修単位数2単位を修得しなければならない。	
日本を考える	2		2		

### 2 基礎科目

授 業 科 目	単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	履 修 方 法	備 考
キャリアデザイン	2	2		必修単位数2単位を修得しなければならない。	

### 3 総合教育科目

授 業 科 目	単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	履 修 方 法	備 考
哲 学	2		2	6単位以上を修得しなければならない。	
日 本 近 現 代 史	2		2		
世 界 近 現 代 史	2		2		
文 学	2		2		
文 章 表 現	2		2		
法 学	2		2		
日 本 国 憲 法	2		2		
社 会 学	2		2		
心 理 学	2		2		
経 済 と 流 通	2		2		
数 学 I	2		2		
数 学 II	2		2		
生 物 学	2		2		
化 学	2		2		
統 計 学 I	2		2		
統 計 学 II	2		2		

### 4 外国語科目

授 業 科 目	単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	履 修 方 法	備 考
英 語 I	1		1	2単位以上を修得しなければならない。	
英 語 II	1		1		
英 語 III	1		1		

英 語 IV	1		1		
海 外 語 学 実 習	2		2		

5 保健体育科目

授 業 科 目	単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	履 修 方 法	備 考
スポーツ科学と健康	2		2		
ス ポ ー ツ 総 合	1		1		

6 専門教育科目

授 業 科 目	単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	履 修 方 法	備 考
公 衆 衛 生 学	2	2		}	
社 会 福 祉 概 論	2		2		
解 剖 生 理 学	2	2			
解 剖 生 理 学 実 験	1		1		
栄 養 生 化 学	2		2		
栄 養 生 化 学 実 験	1		1		
病 理 学 概 論	2		2		
疾 病 学 概 論	2		2		
基 礎 食 品 学	2	2			
応 用 食 品 学	2		2		
食 品 学 実 験	1		1		
食 品 衛 生 学	2		2		
食 品 衛 生 学 実 験	1		1		
基 礎 栄 養 学	2	2			
応 用 栄 養 学	2		2		
栄 養 学 実 習	1		1		
臨 床 栄 養 学	2		2		
臨 床 栄 養 学 実 習	1		1		
健 康 管 理 概 論	2		2		
栄 養 教 育 論	2	2			
栄 養 教 育 実 習	1		1		
実 践 栄 養 教 育 論	2		2		
実 践 栄 養 教 育 実 習	1		1		
公 衆 栄 養 学	2		2		

必修単位数12単位を含めて、合計40単位以上を修得しなければならない。

調 理 学	2	2		
調理学基礎実習	1		1	
調理学応用実習	1		1	
調理科学実験	1		1	
食事計画演習	1		1	
給食経営管理論	2		2	
給食管理実習Ⅰ	1		1	
給食管理実習Ⅱ	1		1	
給食管理実習Ⅲ	1		1	
食品分析論	2		2	
バイオテクノロジー論	2		2	
フードコーディネータ論	2		2	
フードスペシャリスト論	2		2	
特 殊 講 義	2		2	
情報処理実習Ⅰ	1		1	
情報処理実習Ⅱ	1		1	
栄養情報処理演習	1		1	
卒 業 研 究	2		2	

第55条 栄養士養成施設として、指定されている食物栄養学科における履修方法は、別に定めるところによる。

### 第3節 建築・生活デザイン学科

第56条 建築・生活デザイン学科における授業科目及び単位数並びにその履修方法は、次のとおりである。卒業に必要な単位数は、科目区分ごとに履修方法で定めた単位数（補充教育科目を除く）を含め、総計62単位以上を修得しなければならない。

#### 1 全学共通教育科目

授 業 科 目	単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	履 修 方 法	備 考
自主創造の基礎	2	2		必修単位数2単位を修得しなければならない。	
日本を考える	2		2		

#### 2 総合教育科目

授 業 科 目	単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	履 修 方 法	備 考

〈教養教育部門〉				8単位以上を修得しなければならない。 言語教育部門から3単位以上を修得しなければならない。
歴史学	2		2	
市民生活と法	2		2	
経済学入門	2		2	
日本国憲法	2		2	
ことばと文化	2		2	
哲学	2		2	
日本語表現の基礎	1		1	
スポーツⅠ	1		1	
スポーツⅡ	1		1	
スポーツ健康科学	2		2	
技術者倫理	2		2	
現代物理学	2		2	
科学技術と人間	2		2	
地理学	2		2	
データサイエンスの世界	2		2	
〈言語教育部門〉				
基礎英語 A	1		1	
基礎英語 B	1		1	
中級英語 A	1		1	
中級英語 B	1		1	
実用英語Ⅰ	1		1	
実用英語Ⅱ	1		1	

### 3 専門教育科目

分野別専門教育部門を置き、その下にデザイン系及びエンジニアリング系の各専門分野を配置し、卒業判定時において修得単位数が最大である専門分野をもって主専攻分野とする。ただし、修得単位数が最大である専門分野が複数ある場合は、申請された専門分野をもって主専攻分野とする。

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
入門ゼミナール	1	1		必修単位数9単位を含め、合計32単位以上を修得しなければならない。	
基礎ゼミナール	1	1			

総合ゼミナール	1	1		ただし、許可を得てものづくり・サイエンス総合学科において履修した専門教育科目について修得した単位は、6単位を超えない範囲で、当該学生が在籍する学科の専門教育科目選択科目の履修により修得したものとみなす。
卒業研究	2	2		
＜共通基礎教育部門＞				
情報リテラシ	1		1	
微分積分Ⅰ	2		2	
微分積分Ⅱ	2		2	
行列と行列式	2		2	
線形代数	2		2	
数学演習Ⅰ	1		1	
数学演習Ⅱ	1		1	
微分方程式Ⅰ	2		2	
微分方程式Ⅱ	2		2	
数理統計Ⅰ	2		2	
数理統計Ⅱ	2		2	
物理Ⅰ	2		2	
物理Ⅱ	2		2	
物理演習	1		1	
物理実験Ⅰ	1		1	
物理実験Ⅱ	1		1	
化学の基礎	2		2	
入門化学実験	2		2	
＜共通専門教育部門＞				
建築・生活デザインの基礎	2	2		A デザイン系分野、B エンジニアリング系分野のいずれか1分野のうちから10単位以上を修得し、共通専門教育部門（必修科目を除く）の修得単位を含め、14単位以上を修得しなければならない。
建築デザインスタジオⅠ	2	2		
建築計画の基礎	2		2	
建築構法の基礎	2		2	
建築環境の基礎	2		2	
建築総合プロジェクト	2		2	
＜分野別専門教育部門＞				
A デザイン系分野				
欧米の建築史	2		2	
現代建築論	2		2	
日本・アジアの建築史	2		2	

建 築 計 画 I	2	2		
建 築 計 画 II	2	2		
ランドスケープデザイン	2	2		
建 築 法 規	2	2		
都 市 デ ザ イ ン	2	2		
建築デザインスタジオII	2	2		
建築デザインスタジオIII	2	2		
建築ユニバーサルデザイン	2	2		
インテリアデザインの基礎	2	2		
イ ン テ リ ア 計 画	2	2		
造形デザイン演習	1	1		
メディアデザイン演習	1	1		
C A D 演 習	1	1		
B エンジニアリング系分野				
建 築 力 学 I	2	2		
建 築 力 学 II	2	2		
建築力学演習 I	1	1		
建築力学演習 II	1	1		
建築材料力学 I	2	2		
建築材料力学 II	2	2		
地 盤 工 学	2	2		
デ ー タ 解 析	2	2		
情 報 処 理	1	1		
建築情報処理	1	1		
建 築 材 料 I	2	2		
建 築 材 料 II	2	2		
建築基礎実験	1	1		
建 築 実 験 I	1	1		
建 築 実 験 II	1	1		
建 築 各 種 構 法	2	2		
建築施工法&リノベーション	2	2		

建 築 気 候	2		2		
環 境 工 学 演 習 I	1		1		
環 境 工 学 演 習 II	1		1		
建 築 音 環 境	2		2		
建 築 設 備	2		2		
水 理 学 I	2		2		
水 理 学 II	2		2		
水 理 学 演 習 I	1		1		
水 理 学 演 習 II	1		1		
地 盤 力 学 I	2		2		
地 盤 力 学 II	2		2		
地 盤 力 学 演 習 I	1		1		
地 盤 力 学 演 習 II	1		1		
<キャリア・職業教育部門>					
建築キャリアデザイン	1		1		
ものづくりインターンシップ	1		1		

#### 4 補充教育科目

授 業 科 目	単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	履 修 方 法	備 考
理 数 基 礎 演 習 A	1		1		
理 数 基 礎 演 習 B	1		1		
理 数 総 合 演 習 A	1		1		
理 数 総 合 演 習 B	1		1		

#### 第4節 ものづくり・サイエンス総合学科

第57条 ものづくり・サイエンス総合学科における授業科目及び単位数並びにその履修方法は、次のとおりである。卒業に必要な単位数は、科目区分ごとに履修方法で定めた単位数（補充教育科目を除く）を含め、総計62単位以上を修得しなければならない。

##### 1 全学共通教育科目

授 業 科 目	単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	履 修 方 法	備 考
自 主 創 造 の 基 礎	2	2		必修単位数2単位を修得しなければならない。	
日 本 を 考 え る	2		2		

## 2 総合教育科目

授 業 科 目	単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	履 修 方 法	備 考
〈教養教育部門〉				8単位以上を修得しなければならぬ。	
歴 史 学	2		2		
市 民 生 活 と 法	2		2	言語教育部門から3単位以上を修得しなければならない。	
経 済 学 入 門	2		2		
日 本 国 憲 法	2		2		
こ と ば と 文 化	2		2		
哲 学	2		2		
日 本 語 表 現 の 基 礎	1		1		
ス ポ ー ツ I	1		1		
ス ポ ー ツ II	1		1		
ス ポ ー ツ 健 康 科 学	2		2		
技 術 者 倫 理	2		2		
現 代 物 理 学	2		2		
科 学 技 術 と 人 間	2		2		
地 理 学	2		2		
データサイエンスの世界	2		2		
〈言語教育部門〉					
基 礎 英 語 A	1		1		
基 礎 英 語 B	1		1		
中 級 英 語 A	1		1		
中 級 英 語 B	1		1		
実 用 英 語 I	1		1		
実 用 英 語 II	1		1		

## 3 専門教育科目

- ① 分野別専門教育部門（機械工学分野，電気電子工学分野，情報科学分野，応用化学分野，物理学分野，数学分野，総合科学分野）のうちから，卒業判定時において修得単位数が最大である専門分野をもって主専攻分野とする。ただし，修得単位数が最大である専門分野が複数ある場合は，申請された専門分野をもって主専攻分野とする。
- ② 第34条の2に定める学位に付記する専攻分野の名称は，機械工学分野，電気電

子工学分野，情報科学分野及び応用化学分野は工学とし，物理学分野，数学分野及び総合科学分野は理学とする。

授 業 科 目	単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	履 修 方 法	備 考
入 門 ゼ ミ ナ ー ル	1	1		必修単位数6単位を含め，合計32単位以上を修得しなければならない。 ただし，許可を得て建築・生活デザイン学科において履修した専門教育科目について修得した単位は，6単位を超えない範囲で，当該学生が在籍する学科の専門教育科目選択科目の履修により修得したものとみなす。  分野別専門教育部門(A 機械工学分野，B 電気電子工学分野，C 情報科学分野，D 応用化学分野，E 物理学分野，F 数学分野，G 総合科学分野)のいずれか1分野のうちから10単位以上，共通基礎教育部門の修得単位を含め，16単位以上を修得しなければならない。 ただし，E分野の応用物理学実験Ⅰ，応用物理学実験Ⅱの修得単位については，B分野及びC分野の専門教育科目の履修により修得したものとみなすことができる。 E分野の電磁気学Ⅰ，電磁気学Ⅱ，電磁気学演習Ⅰ，電磁気学演習Ⅱの修得単位については，B分野の専門教育科目の履修により修得したものとみなすことができる。 キャリア・職業教育部門の修得単位については，G分野の専門教育科目の履修により修得したものとみなすことができる。	
基 礎 ゼ ミ ナ ー ル	1	1			
発 展 ゼ ミ ナ ー ル	1	1			
総 合 ゼ ミ ナ ー ル	1	1			
卒 業 研 究	2	2			
〈共通基礎教育部門〉					
情 報 リ テ ラ シ	1		1		
微 分 積 分 Ⅰ	2		2		
微 分 積 分 Ⅱ	2		2		
行 列 と 行 列 式	2		2		
線 形 代 数	2		2		
数 学 演 習 Ⅰ	1		1		
数 学 演 習 Ⅱ	1		1		
微 分 方 程 式 Ⅰ	2		2		
微 分 方 程 式 Ⅱ	2		2		
数 理 統 計 Ⅰ	2		2		
数 理 統 計 Ⅱ	2		2		
物 理 Ⅰ	2		2		
物 理 Ⅱ	2		2		
物 理 演 習	1		1		
物 理 実 験 Ⅰ	1		1		
物 理 実 験 Ⅱ	1		1		
化 学 の 基 礎	2		2		
入 門 化 学 実 験	2		2		
〈分野別専門教育部門〉					
A 機械工学分野					
材 料 力 学 Ⅰ	2		2		
材 料 力 学 Ⅱ	2		2		
流 体 力 学 Ⅰ	2		2		

流体力学Ⅱ	2	2		
機械要素Ⅰ	2	2		
機械要素Ⅱ	2	2		
機械工作法Ⅰ	2	2		
機械工作法Ⅱ	2	2		
機械材料	2	2		
機械製図の基礎	1	1		
基礎機械設計製図Ⅰ	2	2		
基礎機械設計製図Ⅱ	1	1		
機械設計製図Ⅰ	2	2		
機械設計製図Ⅱ	2	2		
機械工作実習Ⅰ	2	2		
機械工作実習Ⅱ	2	2		
機械工学実験	2	2		
機械力学演習	1	1		
材料力学演習Ⅰ	1	1		
材料力学演習Ⅱ	1	1		
流体力学演習Ⅰ	1	1		
流体力学演習Ⅱ	1	1		
熱力学演習	1	1		
B 電気電子工学分野				
回路理論Ⅰ	2	2		
回路理論Ⅱ	2	2		
回路網の解析	2	2		
回路の応答	2	2		
電子回路Ⅰ	2	2		
電子回路Ⅱ	2	2		
電気計測Ⅰ	2	2		
電気計測Ⅱ	2	2		
電気機器	2	2		
基礎電子物性	2	2		
電子物性工学	2	2		
基礎電気電子実験	2	2		

C 情報科学分野			
情報数理入門	2	2	
論理回路	2	2	
コンピュータハードウェア基礎	2	2	
コンピュータシステム序論	2	2	
プログラミング基礎	2	2	
プログラミング I	2	2	
プログラミング II	2	2	
Java プログラミング	2	2	
数値解析	2	2	
数値シミュレーション	2	2	
コンピュータグラフィックス	2	2	
情報ネットワーク基礎	2	2	
情報セキュリティ基礎	2	2	
情報基礎実験	2	2	
D 応用化学分野			
化学 III	2	2	
生命科学概論	2	2	
有機化学 I	2	2	
有機化学 II	2	2	
有機化学 III	2	2	
高分子科学	2	2	
無機化学 I	2	2	
無機化学 II	2	2	
無機化学 III	2	2	
分析化学 I	2	2	
分析化学 II	2	2	
物理化学 I	2	2	
物理化学 II	2	2	
基礎化学工学	2	2	
生命科学 I	2	2	
生命科学 II	2	2	
生命科学 III	2	2	

生命有機化学	2	2		
バイオマテリアル	2	2		
分子生物学	2	2		
分析化学・無機化学実験	3	3		
物理化学・化学工学実験	3	3		
高分子・有機化学実験	3	3		
生物化学実験	3	3		
E 物理学分野				
物理学	2	2		
物理学演習	1	1		
力学 I	2	2		
力学 II	2	2		
力学演習 I	1	1		
力学演習 II	1	1		
電磁気学 I	2	2		
電磁気学 II	2	2		
電磁気学演習 I	1	1		
電磁気学演習 II	1	1		
量子力学 I	2	2		
量子力学 II	2	2		
量子力学演習	1	1		
熱力学	2	2		
相対論	2	2		
応用物理学実験 I	2	2		
応用物理学実験 II	2	2		
F 数学分野				
数学通論 I	2	2		
数学通論 II	2	2		
数学通論 III	2	2		
数学通論 IV	2	2		
解析学基礎論	2	2		
微分積分学 I	4	4		
微分積分学 II	4	4		
代数学幾何学 I	4	4		

代数学幾何学Ⅱ	4		4		
代数学幾何学Ⅲ	4		4		
代数学Ⅰ	2		2		
代数学Ⅱ	2		2		
G 総合科学分野					
情報活用演習Ⅰ	1		1		
情報活用演習Ⅱ	1		1		
多変量解析	2		2		
ベクトル解析	2		2		
ベクトル解析演習	1		1		
複素関数論	2		2		
化学Ⅰ	2		2		
化学Ⅱ	2		2		
応用化学実験	2		2		
<キャリア・職業教育部門>					
キャリアデザイン	2		2		
危険物管理入門	2		2		
工学スキル演習A	1		1		
工学スキル演習B	1		1		

#### 4 補充教育科目

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	備考
理数基礎演習A	1		1		
理数基礎演習B	1		1		
理数総合演習A	1		1		
理数総合演習B	1		1		
基礎工学演習Ⅰ	1		1		
基礎工学演習Ⅱ	1		1		

#### 第5節 (削除)

第58条 (削除)

第59条 (削除)

第60条 (削除)

## 第3章 専攻科

### 第1節 総則

第61条 本短期大学部に、専攻科を置く。

2 専攻科は、短期大学部における一般的並びに専門的教育の基礎の上に、更に精深な学術の理論及び応用を教授し、その研究を指導することを目的とする。

第62条 専攻科の修業年限は、2年とする。2年を超えて在学しようとする者は、関係学科長の許可を得なければならない。ただし、4年を超えて在学することはできない。

第63条 専攻科に2年以上在学して、所定の課程を修了したと認められる者には、修了証書を授与する。

第64条 本章に規定しない事項については、第1章総則による。

### 第2節 教員及び運営機構

第65条 専攻科学生の研究指導は、本短期大学部の教員がこれに当たる。

第66条 専攻科の学事は、教授会において、これを管理する。

第67条 専攻科の学務は、学長が総轄し、関係学科長がこれを管掌する。

### 第3節 入学及び入学資格

第68条 専攻科に入学できる者は、次の資格を有し、本短期大学部の検定に合格した者とする。

- ① 短期大学を卒業した者
- ② 大学に編入学することができる基準を満たす高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等科を含む）の専攻科の課程を修了した者
- ③ 大学に編入学することができる基準を満たす専修学校の専門課程を修了した者
- ④ 外国において、学校教育における14年の課程を修了した者
- ⑤ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における14年の課程を修了した者
- ⑥ 我が国において、外国の短期大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における14年の課程を修了したとされるものに限る）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- ⑦ 本専攻科において、短期大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

第69条 (削除)

第4節 教育課程及び履修方法

第70条 食物栄養専攻における授業科目及び単位数並びにその履修方法は、次のとおりである。

授 業 科 目	単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	履 修 方 法	備 考
A群 講義科目				専門科目A群,B群から必修科目を含めて62単位以上を修得しなければならない。	
栄 養 学 特 論	4	4			
ライフステージ栄養学特論	2		2		
解剖生理学特論	4	4			
生 化 学 特 論	2		2		
病 理 学 特 論	2		2		
疾 病 学 特 論	2		2		
臨床栄養学特論	4	4			
実践臨床栄養学特論	2		2		
食 品 学 特 論	4	4			
食 品 機 能 特 論	2		2		
調 理 科 学 特 論	4	4			
バイオテクノロジー特論	2		2		
公衆栄養学特論	2		2		
公衆衛生学特論	2	2			
食 品 衛 生 学 特 論	2		2		
栄 養 教 育 特 論	2	2			
栄養カウンセリング特論	2		2		
給食経営管理特論	2		2		
健 康 科 学 特 論	2	2			
食 文 化 特 論	2		2		
社 会 福 祉 特 論	2		2		
食 品 産 業 特 論	2		2		
統 計 解 析 特 論	2		2		
B群 演習実験実習科目					
解剖生理学特別実験	1	1			
臨床栄養学特別実習Ⅰ (校内実習)	1	1			

臨床栄養学特別実習Ⅱ (校外実習)	2	2		
調理学特別実習	1	1		
栄養教育特別実習Ⅰ (校内実習)	1	1		
栄養教育特別実習Ⅱ (校外実習)	1		1	
栄養情報処理特別演習	1	1		
情報処理特別演習	1		1	
外国文献講読	1	1		
特別研究	4	4		
特殊講義(専攻科)	2	2		特殊講義(専攻科)は2年次に履修し,学修レポートを作成しなければならない。

#### 附 則

- この学則は、令和7年4月1日から施行する。
- 令和2年4月1日施行の学則については、第18条、第20条、第23条から第25条、第30条、第32条、第35条、第47条及び第51条は、入学年度にかかわらず、この規定を適用する。
- 第34条、第34条の2の短期大学士の学位に関する規定は平成17年10月1日から適用する。
- ビジネス教養学科の収容定員は、第10条の規定にかかわらず、令和7年度は、次のとおりとする。

	令和7年度
ビジネス教養学科	160

- 食物栄養学科の収容定員は、第10条の規定にかかわらず、令和7年度は、次のとおりとする。

	令和7年度
食物栄養学科	100

別表 1

教育研究上の目的（短期大学部）
<p>（ビジネス教養学科）</p> <p>外国語の能力及び社会人としての基礎的な教養を幅広く学習するとともに，異文化理解やコミュニケーションスキルを身に付ける。経済学・商学・国際関係学を中心に，情報処理学・観光・会計実務・マナーなど，ビジネス環境において即戦力となる人材養成のための専門教育分野に加え，急激に変化する社会に対応し，将来へのキャリア・パスを自主創造し人間関係を築くことのできる教養を持った人材を養成する。</p>
<p>（食物栄養学科）</p> <p>活力のある社会を実現する上で欠かせない健全な食生活による健康の維持・増進を担える人材を養成するため，幅広い教養を身に付けるとともに，栄養と健康に関する専門知識と技術を習得する。さらに地域社会に密着した食と健康の問題に栄養士及び管理栄養士として取り組み，将来，人々の豊かな食生活と健康の実現に貢献できる教育を行う。</p>
<p>（建築・生活デザイン学科）</p> <p>都市から建築・インテリアまで，日常生活の舞台となる地球・地域環境や生活環境について，工学的観点・デザインの側面・社会的視点など幅広い見地から関心を育み，建築・生活デザインに関する知識及び技術を授け，問題意識を培うことにより，快適で安全な建築・住空間と都市の創造に取り組む設計者・技術者など，持続的発展可能な社会の構築に対し，自ら学び，考え，創造する姿勢・習慣を備えた人材を養成する。</p>
<p>（ものづくり・サイエンス総合学科）</p> <p>知識基盤社会における多様な学習機会並びに基礎づくりの場を提供するとともに，高等教育のファーストステージとしての役割・機能を積極的に果たし，社会の一員としての自律性，倫理性，公共性を育み，知的活動及び社会生活に必要な基礎的・汎用的能力を培い，幅広い教養と機械工学分野，電気電子工学分野，情報科学分野，応用化学分野，物理学分野，数学分野及び総合科学分野のうち一分野に関する専門的知識・技能を有し，技術革新により産業構造が急速に変化する中，社会の様々な分野において活躍し得る，自ら学び，考え，物事に取り組む姿勢，習慣を備えた積極的な人材を養成する。</p>
<p>（食物栄養専攻）</p> <p>栄養士養成課程で修得した知識と技術を基とし，自主性，自律性を重んじ，より高度な専門知識に加えて実践的な技能と応用力を修得することを目的とする。</p> <p>また，深く真理を探究して新たな栄養学の知見を創造し，その成果を広く社会に還元することにより，社会の発展に寄与・貢献できる人材を養成する。</p>

別表 2 の 1

学 科		項 目	◎入学金	授 業 料	実験実習料	施 設 設 備 資 金
短	ビジネス教養学科		260,000	650,000②		1・2年次 各 150,000②
	食物栄養学科		260,000	700,000②	150,000②	1・2年次 各 150,000②
大	建築・生活デザイン学科		260,000	920,000②	100,000②	1・2年次 各 220,000②
	ものづくり・サイエンス総合学科		260,000	920,000②	100,000②	1・2年次 各 220,000②

- (備考)
- 1 金額の単位は円
  - 2 金額はすべて年額。ただし、◎印は入学初年度のみ納入
  - 3 ○印の中の数字は分納回数
  - 4 この表は、令和4年4月の入学者から適用する。

別表 2 の 2

専 攻		項 目	◎入学金	授 業 料	実験実習料	施 設 設 備 資 金
専攻科	食物栄養専攻		260,000	700,000②	150,000②	1・2年次 各 150,000②

- (備考)
- 1 金額の単位は円
  - 2 金額はすべて年額。ただし、◎印は入学初年度のみ納入
  - 3 ○印の中の数字は分納回数
  - 4 この表は、平成27年4月の入学者から適用する。

## 別表 3

## 証明手数料

種 類	摘 要	金額 (円)	備 考
在 学 証 明 書	1 通につき	100	
成 績 証 明 書	〃	200	
卒 業 証 明 書	〃	200	
卒 業 見 込 証 明 書	〃	100	
身 上 証 明 書	〃	100	
人 物 調 査 書	〃	100	
健 康 診 断 書	〃	100	
英文証明書 (オリジナル)	〃	600	
英文証明書 (コピー)	〃	200	

# 学務委員会数理・データサイエンス・A I 教育プログラム 検討ワーキンググループ設置要項

## 1 設置目的

Society 5.0で活躍するH型人才を育成すべく、その根幹となる情報リテラシー及びデータサイエンスに係る知識・技能、態度、習慣を涵養するとともに、文部科学省「数理・データサイエンス・A I 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に全学共通での科目として申請するに当たり、設置した「データサイエンスの世界」に関して、具体的な授業の設計（成績評価等を含む）や運営・実施の体制等を検討する組織として、学務委員会に本ワーキンググループを設置した。

令和7年度から「データサイエンスの世界」の運用を開始したため、今後は、本ワーキンググループに本教育プログラムを改善・進化させる体制としての機能を持たせる。

## 2 構 成 員

別添名簿のとおり

## 3 ワーキンググループ設置日

令和6年11月26日（学務委員会承認日）

## 4 備 考

- ①本件については、学務委員会規程第7条に基づき設置する。
- ②科目の実施に係る検証体制を別途構築し、必要な改善を適切に行い、持続可能性を担保する。

以 上

学務委員会数理・データサイエンス・AI教育プログラム  
検討ワーキンググループ

令和7年11月25日現在

リーダー	大熊康典	(生産工学部教授)
サブリーダー	中村文紀	(理工学部准教授)
メンバー	※坂本力也	(法学部教授)
	大澤正彦	(文理学部准教授)
	佐藤佑介	(商学部教授)
	遠山岳史	(理工学部教授)
	JEGO Eric Hajime	(医学部准教授)
	篠田雅路	(歯学部教授)
	古賀徹	(通信教育部教授)

備考) ※は令和7年11月25日付委嘱

(学務部)

# 学務委員会数理・データサイエンス・AI教育プログラム 検証ワーキンググループ設置要項

## 1 設置目的

Society 5.0で活躍するH型人才を育成すべく、その根幹となる情報リテラシー及びデータサイエンスに係る知識・技能、態度、習慣を涵養するとともに、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に全学で共通する科目「データサイエンスの世界」を令和7年度から設置する。さらに、授業に係る設計、運営（授業担当を含む）、成績評価及びプログラム改善・進化に関する事項について担当する組織として「学務委員会数理・データサイエンス・AI教育プログラム検討ワーキンググループ」が設置された。

本科目に係る質保証を相応しく実現するに当たり、次の2点を目的とした組織として、学務委員会に本ワーキンググループを設置する。

- ① 科目の実施状況及びモデルカリキュラムとの整合性等を評価すること。
- ② 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの自己点検・評価を行うこと。

### 【自己点検・評価の視点】

- ・プログラムの履修・修得状況
- ・学習成果
- ・学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度
- ・学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度
- ・全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況
- ・教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価(学外視点)
- ・産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見(学外視点)
- ・数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること
- ・内容・水準を維持・向上しつつ、より「わかりやすい」授業とすること

## 2 構 成 員

別添名簿のとおり

## 3 ワーキンググループ設置日

令和7年2月25日（学務委員会承認日）

## 4 備 考

本件については、学務委員会規程第7条に基づき設置する。

以 上

学務委員会数理・データサイエンス・AI教育プログラ  
検証ワーキンググループ名簿

令和7年4月22日現在

リーダー	辻	泰弘	(薬学部教授)
メンバー	田中	絵里子	(文理学部准教授)
	寺沢	幹雄	(経済学部教授)
	佐甲	徳栄	(理工学部教授)

以 上

大学等名	日本大学短期大学部	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育リテラシープログラム	申請年度	令和7年度

## 日本大学 数理・データサイエンス・AI教育リテラシープログラム 取組概要



### 「データサイエンスの世界」の概要

- ◆ 1年次選択科目(全学共通科目):2単位
- ◆ 文系, 理系, 医療系の教員が参画する総合大学のメリットを活かしたプログラムを開発
- ◆ 企業の知見やクラウド環境も活用
- ◆ Canvas LMSとメタバースによる分散型キャンパスの一元化

### プログラムの目的

総合大学としてSociety5.0で活躍するH型人才(専門分野を持ちつつ他分野の専門家と交流できる人材)を育成するために, その根幹となる情報リテラシー及びデータサイエンスに係る知識・技能, 態度, 習慣を涵養することを目的とした教育を行う。

### 身に付けられる能力

1. データやAIの現代社会における利活用の現況について説明することができる
2. さまざまなデータを読み, データの内容について説明することができる
3. 提示されたデータに基づいて, 自身の考えを客観的に振り返ることができる
4. 自身の考えに関するエビデンスを, データを用いて表現することができる
5. AIの利点やリスクを踏まえて, AIを活用することができる
6. 情報保護やセキュリティをはじめとするデータを守る上で必要な事項について説明することができる

### 修了要件

「データサイエンスの世界」の1科目2単位を修得

### 対象となる学部・学科

学部, 短期大学部, 通信教育部

**法学部** 法律学科, 政治経済学科, 新聞学科, 経営法学科, 公共政策学科

**文理学部** 哲学科, 史学科, 国文学科, 中国語中国文学科, 英文学科, ドイツ文学科, 社会学科, 社会福祉学科, 教育学科, 体育学科, 心理学科, 地理学科, 地球科学科, 数学科, 情報科学科, 物理学科, 生命科学科, 化学科

**経済学部** 経済学科, 産業経営学科, 金融公共経済学科

**商学部** 商業学科, 経営学科, 会計学科

**芸術学部** 写真学科, 映画学科, 美術学科, 音楽学科, 文芸学科, 演劇学科, 放送学科, デザイン学科

**国際関係学部** 国際総合政策学科, 国際教養学科

**危機管理学部** 危機管理学科

**スポーツ科学部** 競技スポーツ学科

**理工学部** 土木工学科, 交通システム工学科, 建築学科, 海洋建築工学科, まちづくり工学科, 機械工学科, 精密機械工学科, 航空宇宙工学科, 電気工学科, 電子工学科, 応用情報工学科, 物質応用化学科, 物理学科, 数学科

**生産工学部** 機械工学科, 電気電子工学科, 土木工学科, 建築工学科, 応用分子化学科, マネジメント工学科, 数理情報工学科, 環境安全工学科, 創生デザイン学科

**工学部** 土木工学科, 建築学科, 機械工学科, 電気電子工学科, 生命応用化学科, 情報工学科

**医学部** 医学科

**歯学部** 歯学科

**松戸歯学部** 歯学科

**生物資源科学部** バイオサイエンス学科, 動物学科, 海洋生物学科, 森林学科, 環境学科, アグリサイエンス学科, 食品開発学科, 食品ビジネス学科, 国際共生学科, 獣医保健看護学科, 獣医学科

**薬学部** 薬学科

**短期大学部** ビジネス教養学科(三島校舎), 建築・生活デザイン学科(船橋校舎), ものづくり・サイエンス総合学科(船橋校舎)

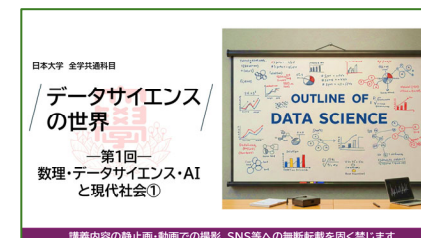
**通信教育部** 法律学科, 政治経済学科, 文学専攻(国文学), 文学専攻(英文学), 哲学専攻, 史学専攻, 経済学科, 商業学科

## プログラムの概要

「日本大学 数理・データサイエンス・AI教育リテラシープログラム」は、「リテラシーレベル」の教育プログラムとして、16学部、2短期大学部、1通信教育部を擁する本学の多様性を活かし、文系、理系および医療系を横断する文理医融合の教育が受けられるプログラムとなっている。さらに、文系、理系、医療系の教員が一丸となって工夫を凝らしたカリキュラムを開発し、多様な視点からデータの見方や活用法を広く学ぶことができる仕組みを構築している。

## モデルカリキュラム(MC)と授業科目「データサイエンスの世界」の構成

項目	MC	授業回													
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
導入	1-1	○	○						○					○	○
	1-2	○			○	○	○	○				○		○	○
	1-3	○	○					○						○	○
	1-4		○		○			○				○		○	○
	1-5	○	○			○	○	○				○		○	○
	1-6		○					○						○	○
基礎	2-1			○	○	○	○	○						○	○
	2-2				○	○	○	○			○	○	○	○	○
	2-3			○	○	○	○	○			○	○	○	○	○
心得	3-1			○				○	○	○				○	○
	3-2								○	○				○	○
選択	4-1											○		○	○
	4-2														
	4-3						○	○						○	○
	4-4														
	4-5											○		○	○
	4-6						○	○					○	○	○
	4-7										○	○	○	○	○
	4-8														
	4-9														
授業回ごとの該当項目		導入	導入	基礎心得	導入基礎	導入基礎	導入基礎選択	導入基礎心得選択	心得	心得	導入基礎選択	基礎選択	基礎選択	導入基礎心得選択	導入基礎心得選択



該当項目	対応数	割合
導入	9	28%
基礎	10	31%
心得	6	19%
選択	7	22%
合計	32	100%

## 特色ある授業

- ◆ 分散する全キャンパスの学生が等しく受講できる環境とするためにオンデマンド方式のオンライン授業とし、受講者はビデオ講義を通じて期間内にいつでも繰り返し学ぶことが可能
- ◆ 講義で得られた知識・技能を基に、学生自身がテーマを設定してデータ収集・分析した成果を動画にまとめて発表し、学生同士の相互評価を通じて今後の改善点を導き出す学修プロセスの実践
- ◆ ペースメイクが難しい学生や仲間とともに学びたい学生を、メタバース環境による同時双方向授業でサポート
- ◆ 北米のデファクトスタンダードであるCanvas LMSを用いて、課題、テスト、ディスカッションを行うことにより、学生のICT技術に触れながらの受講と教員の多角的なラーニングアナリティクスをそれぞれ実現

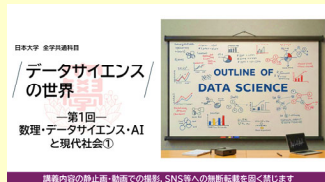
## 動画による成果発表とピア評価

学生自身で学修成果をまとめた動画レポートを作成し、学生間で相互評価(ピア評価)を実施



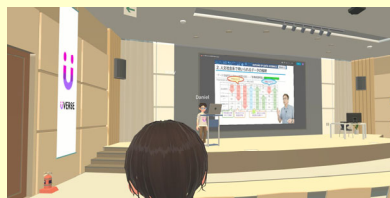
### 学修意欲が高まる授業

文系、理系、医療系の教員が文系の学生にも理解しやすいカリキュラムを開発し、多様な視点からデータの見方や活用法を広く学ぶことができる仕組みを構築



### メタバースを活用した授業

学生はアバターとして仮想教室で授業に参加し、教員や他の学生とリアルタイムに交流



### 英語での授業

外国人教員が参画する授業回は英語で講義を行うと共に、AI翻訳を活用



### 実践型の授業

一般社会でも実際に使われているアプリを使用し、データサイエンスを学修する意義を実感できる内容



## 実施体制

### 数理・データサイエンス・AI教育プログラム 検討ワーキンググループ

授業に係る設計、運営(授業担当を含む)、成績評価及びプログラム改善・進化に関する事項について文系、理系、医療系の教員が担当



### 数理・データサイエンス・AI教育プログラム 検証ワーキンググループ

授業内容・授業実施及び関連する事項に係る評価及びプログラムの自己点検・評価について文系、理系、医療系の教員が担当